

第Ⅳ章

被災地域における避難行動・生活復興状況

調査地域概要

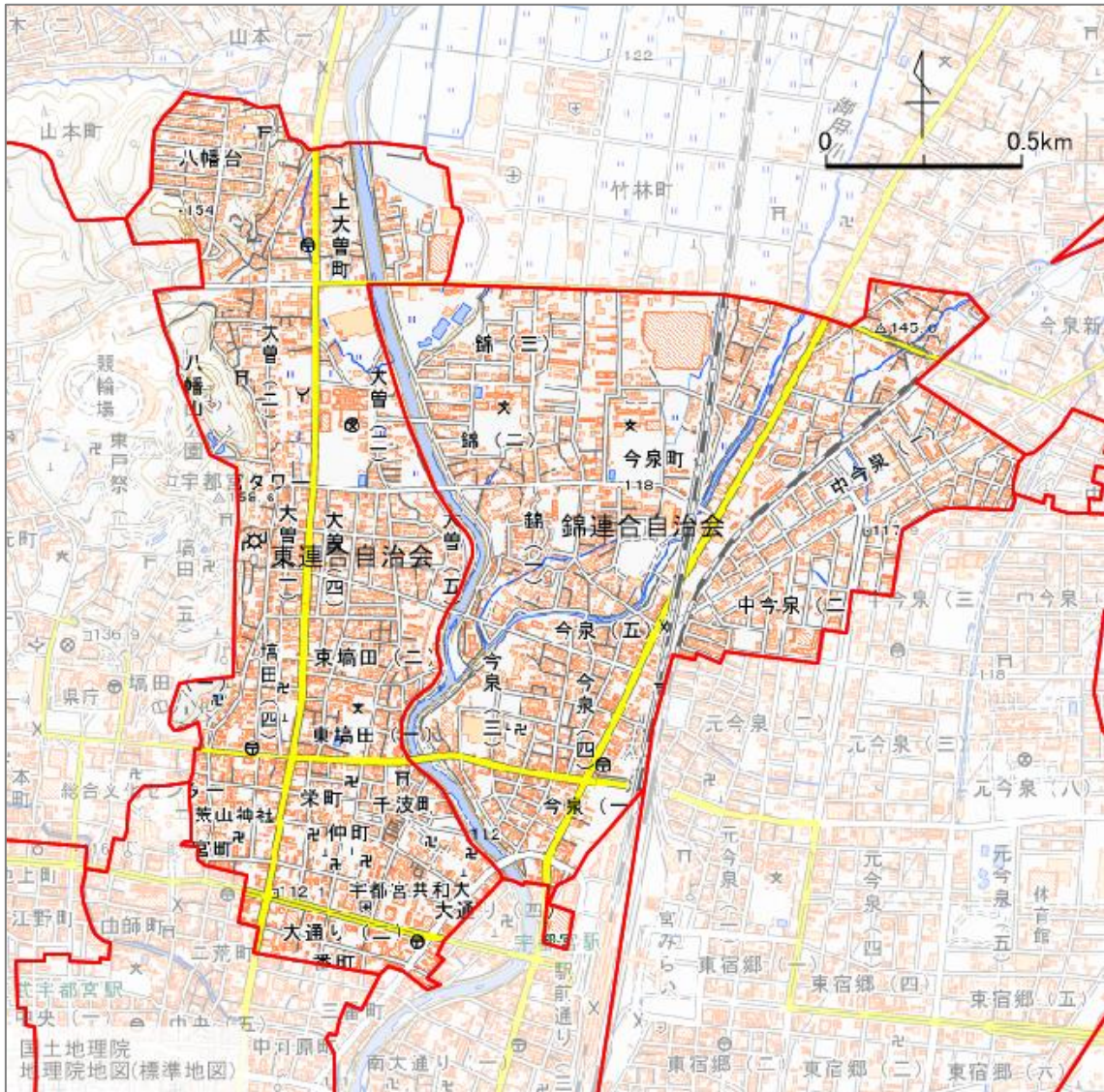
- 宇都宮駅西側の田川流域で被災した「東連合自治会」「錦連合自治会」を対象
- 高齢化率が高く、建築年代の古い住宅も立地
- 「高齢夫婦のみ世帯」「高齢単身世帯」の高い地域が存在
- 本対象地域における河川の溢水による被害は1947年カスリーン台風以来
- 2015年関東・東北豪雨災害時：溢水被害なし

宇都宮市の被害は、前章の図Ⅲ-2 に示す通り、主に田川流域（宇都宮駅西口周辺地域から西原町・川田町周辺）および姿川流域において発生した。本調査ではこのうち、特に浸水被害が集中した宇都宮市千波町を含む宇都宮駅西側に位置する「東連合自治会」（田川右岸）および「錦連合自治会」（田川左岸）内の被災地を対象に調査を行った。調査対象地域を図Ⅳ-1 と図Ⅳ-2 に示す。図Ⅳ-5 から図Ⅳ-7 では、2015年国勢調査データの第5次メッシュ（緯度 7.5 秒・経度 11.25 秒の矩形領域で構成される一辺約 250 メートルの統計単位、1/4 メッシュ）を用い GIS（Geographic Information System＝地理情報システム）による分析を行った結果を示す。宇都宮市内の町丁目境界面積は中心部で小さく、郊外で大きいことが特徴となっており、町丁目境界単位では域内の詳細な動向を比較検討することが困難であることから、同一の区画（メッシュ）を用いて地図化し分析を行った。



図Ⅳ-1 宇都宮市域と調査対象地域（赤枠）

注：（左）町丁目表示・（右）連合自治会表示

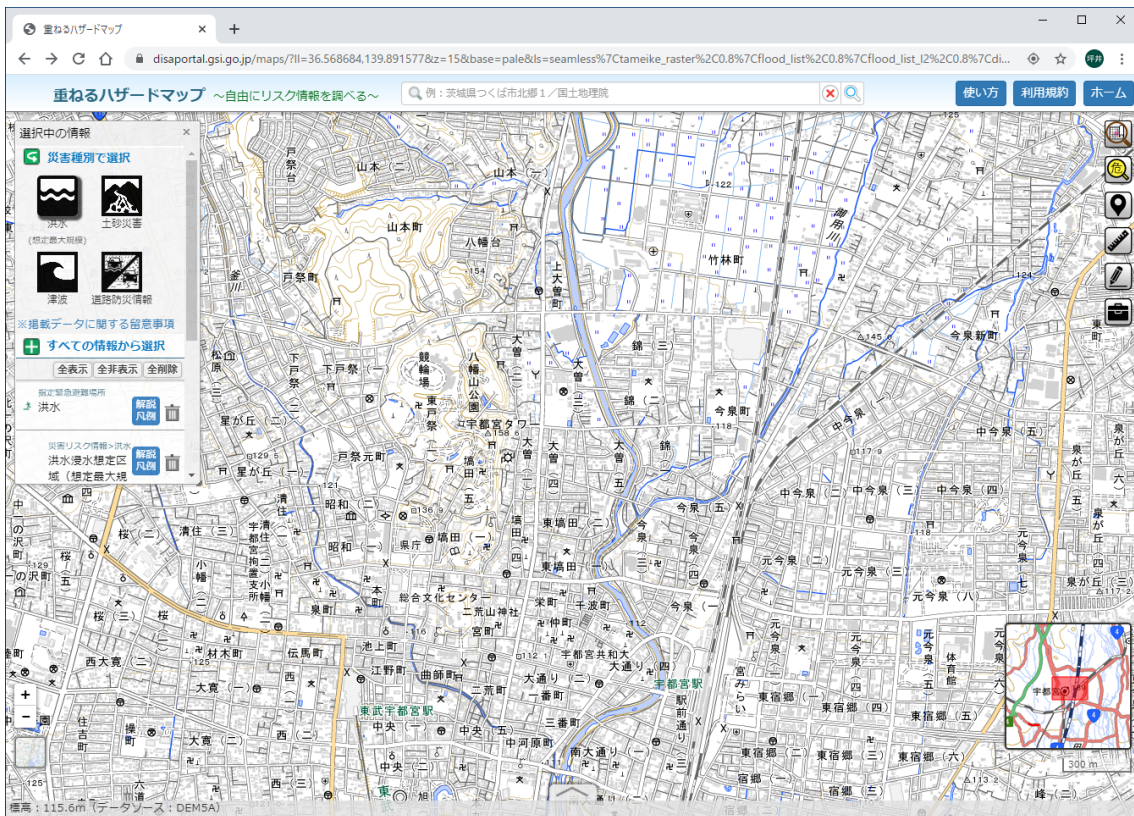


図IV-2 調査対象地域

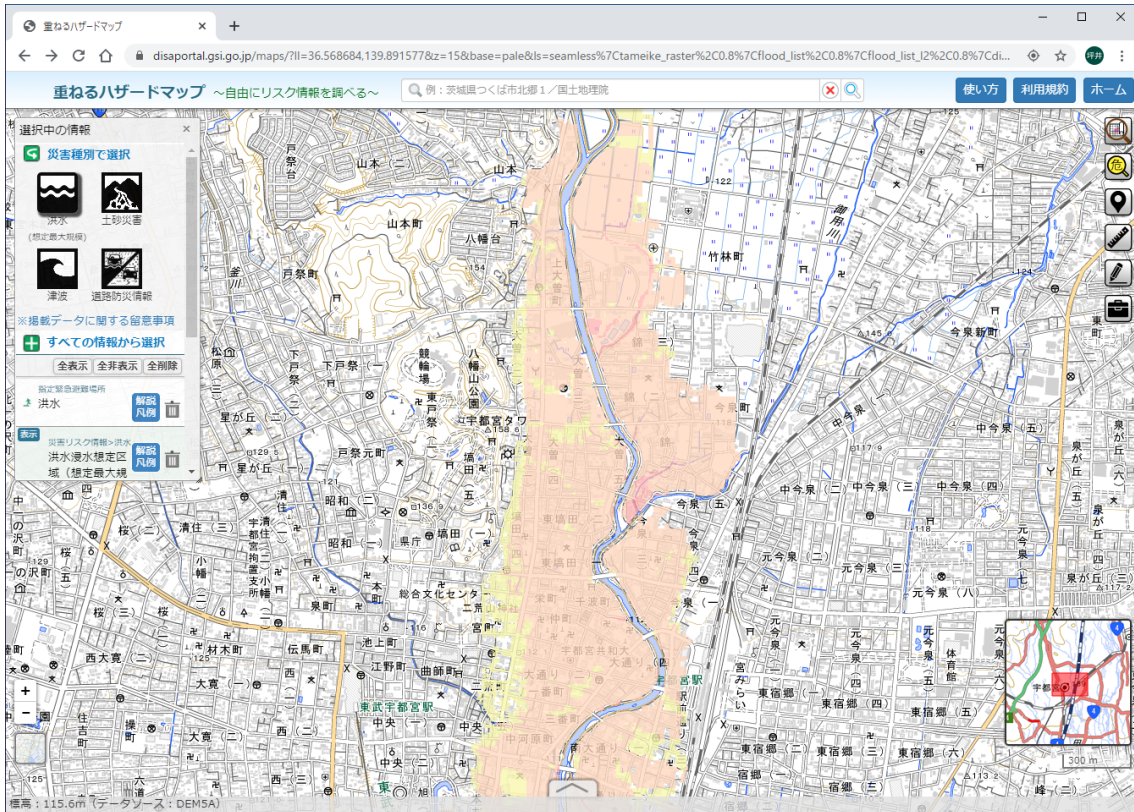
注：赤枠は連合自治会境界を示す。

注：本調査では田川右岸の「東連合自治会」および左岸の「錦連合自治会」を対象とした。質問紙調査の実施にあたっては、同連合自治会内において被災した単位自治会を対象とし、両自治会担当役員の協力のもと調査票の配布を行った。

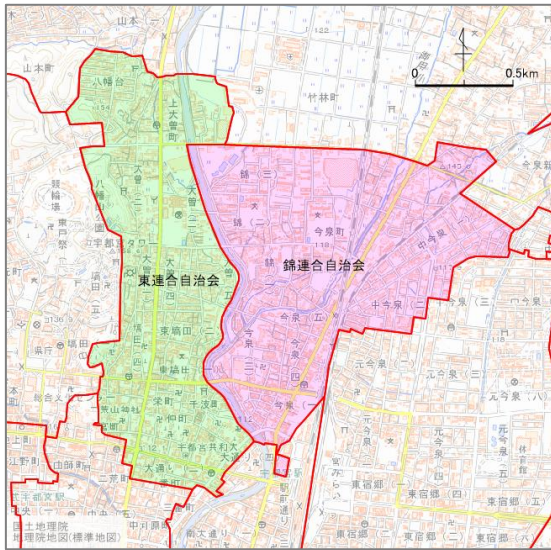
図IV-2 に示す本調査対象地域の河川形態の特徴は、中央部に田川と御用川の合流地点をもち、JR 宇都宮駅方向に向かって東側に曲流した後、西側に転流する形態を有する。また、東側には八幡山の崖線があり、その一部は、土砂災害警戒区域に指定されている。域内は概ね平坦な地形であるが、千波町付近のやや低い地域から西側に向かって緩やかな河岸段丘地形を成し、過去の大雨等の際に、排水不良等による内水氾濫被害が発生した経験を持つ。図IV-3 と図IV-4 に、本地域の洪水浸水想定区域・想定最大規模の表示の有無別に示す。



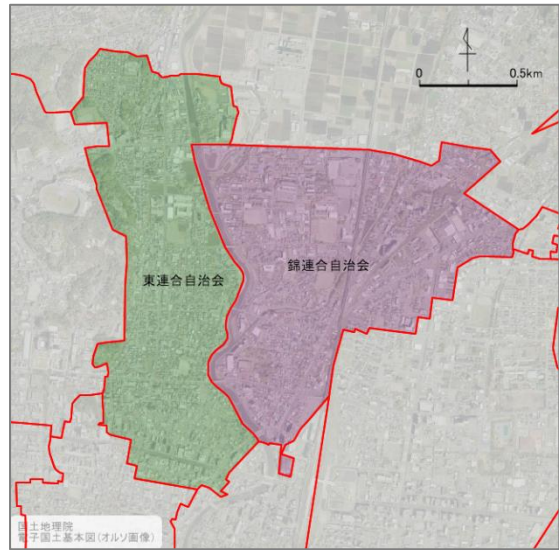
図IV-3 調査対象地域における洪水浸水想定区域・想定最大規模（表示なし）



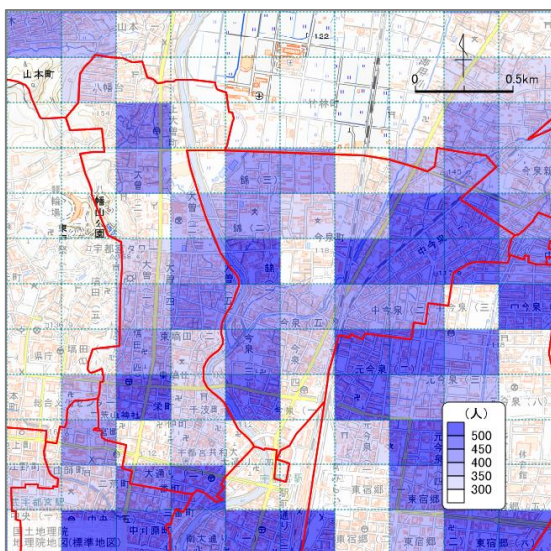
図IV-4 調査対象地域における洪水浸水想定区域・想定最大規模（表示あり）



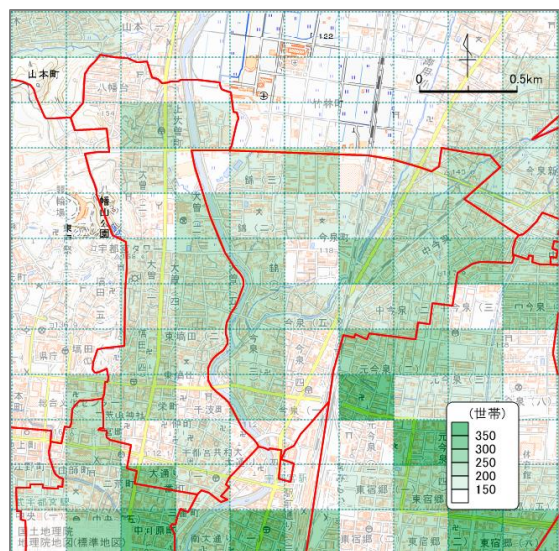
調査対象地域（背景：標準地図）



調査対象地域（背景：空中写真）



人口（人）

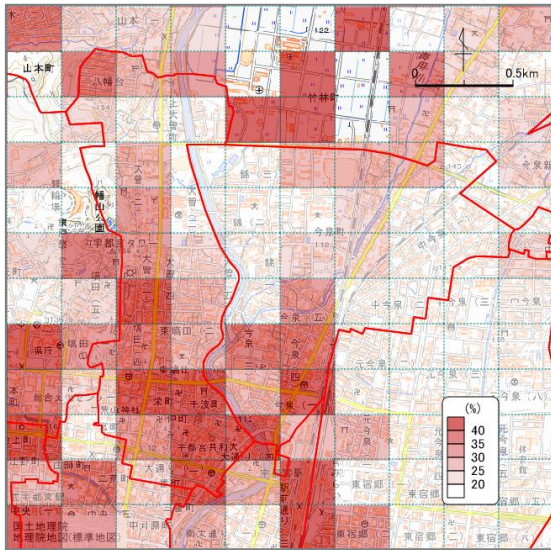


世帯数（世帯）

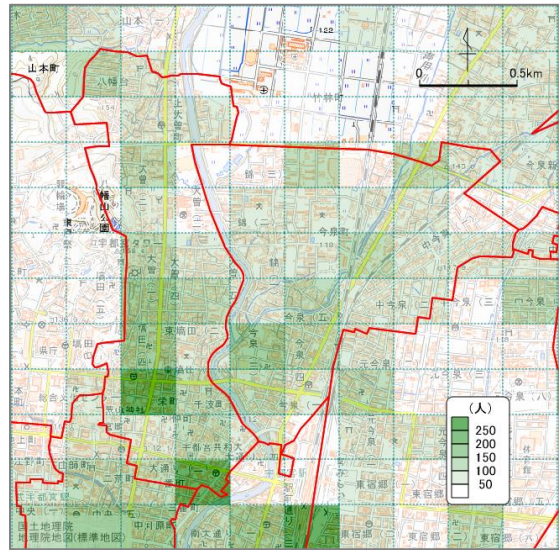
図IV-5 調査対象地域の社会構造（1）

注：国勢調査 2015 年・5 次メッシュ（250m メッシュ）を用いて作成

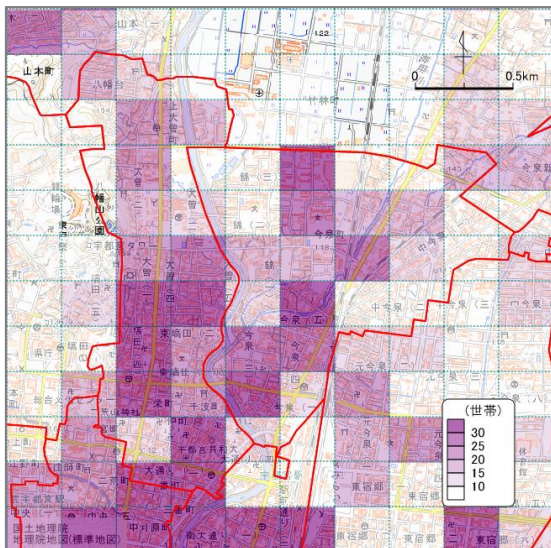
東連合自治会の南端地域は、宇都宮駅から西側に伸びる大通りを含み、同地域には法人ビルや学校、飲食店等の店舗などが立地することから、やや人口が少ないが、田川と御用川の合流地点両岸においては比較的密集した人口を有する。



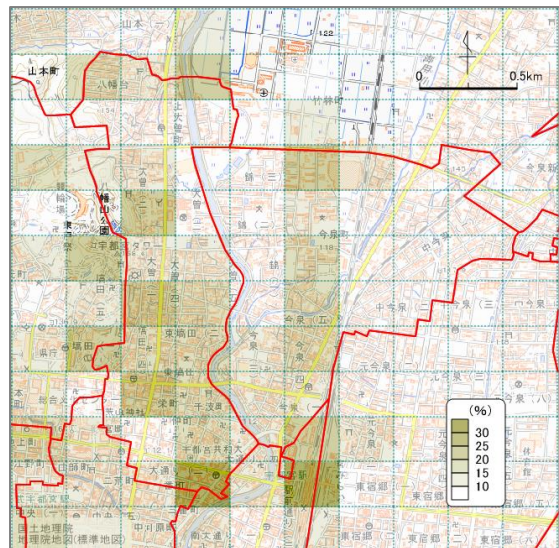
高齢化率 (%)



65歳以上人口 (人)



高齢単身世帯数 (世帯)

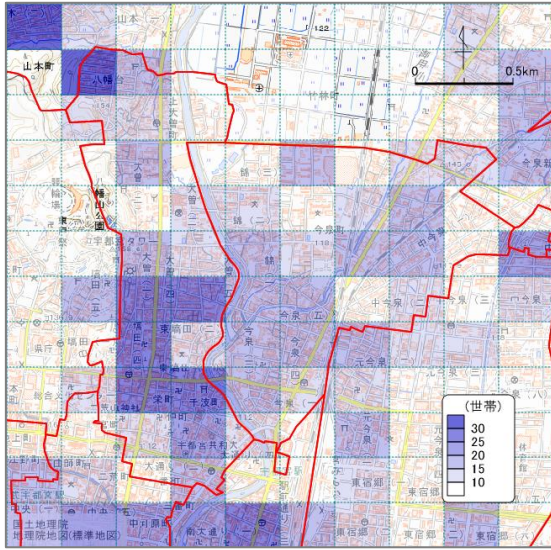


高齢単身世帯割合 (%)

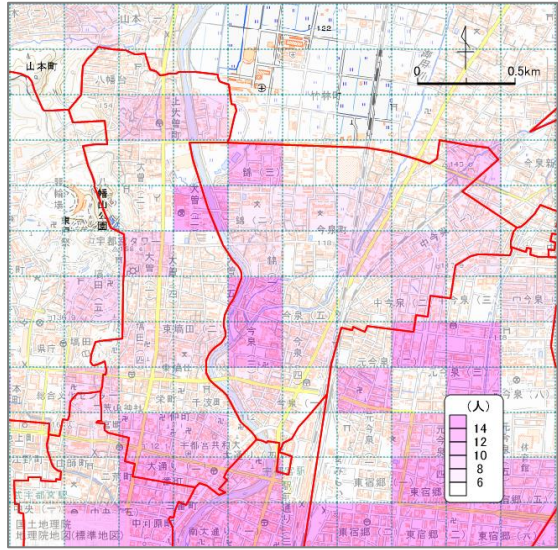
図IV-6 調査対象地域の社会構造 (2)

注：国勢調査 2015 年・5 次メッシュ (250m メッシュ) を用いて作成

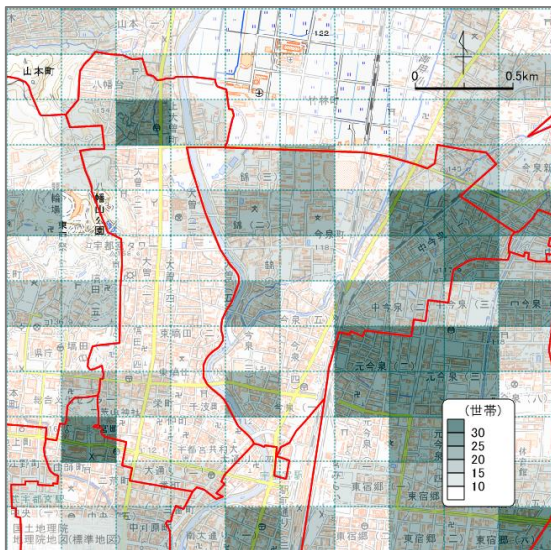
本対象地域の高齢化率では、東連合自治会区域では、南北に広く高齢化が分布している一方、錦連合自治会区域では、南部に集中している。また、域内の「高齢単身世帯」の割合も同様の傾向がみられた。



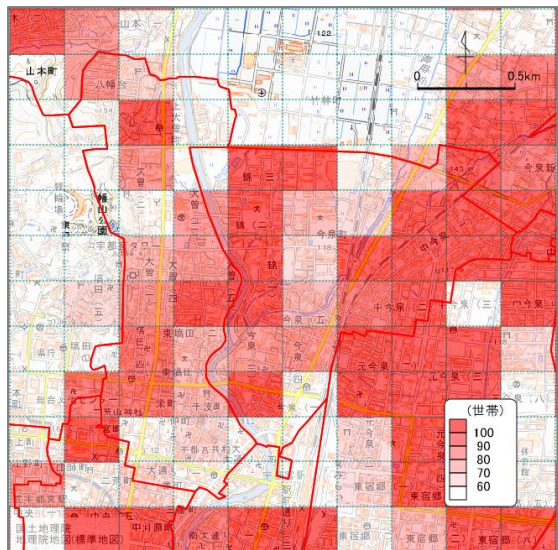
高齢夫婦のみ世帯（世帯）



外国籍人口（人）



6歳未満世帯員のいる世帯数（世帯）



核家族世帯数（世帯）

図IV-7 調査対象地域の社会構造（3）

注：国勢調査2015年・5次メッシュ（250mメッシュ）を用いて作成

「高齢夫婦のみ世帯」は、東連合自治会区域内に多く分布がみられた反面、「6歳未満世帯員のいる世帯」は錦連合自治会の東部地域において集積がみられた。一方、本地域における外国籍人口の居住は必ずしも多くはないものの、災害時には言語等の障壁から災害弱者となる可能性もあることから、域内での対応方法についても併せて検討していくことが課題として挙げられる。

調査方法と概要

- 配布世帯数=1,242世帯（1世帯3部の調査票を封入）
- 自治会を通じた調査票配布を実施（留め置き・郵送回収方式）
- 世帯回収率（36.1%）448世帯・個人回答者数=763人
- 「浸水状況」「復旧支出額」「自動車被害状況」等は「世帯単位」で分析
- 「主観的復興感」「災害関連情報認知」等は「個人単位」で分析

本調査の実施にあたり、うつのみや暮らし復興支援センターのメンバー間で設問内容等に関する議論と検討を行ったうえで質問紙調査票を作成し、1世帯あたり3部（1調査票＝8頁）と返信用封筒を封入し、発災から約5か月後にあたる2020年3月中旬に自治会役員の協力のもと域内の自治会加入者を対象に配布する「留め置き・郵送回収法」により実施した。調査票配布は事前に自治会役員との調整を行い、被災をしていない地域を除いたうえで配布部数（1,242世帯分）を決定した（表IV-1）。

調査票の回収状況（回収率）は、36.1%（448件）、回収封入件数は763件（人）であった（表IV-2）。データの分析にあたっては「浸水状況」や「復旧支出額」等の世帯で代表されるものについては「世帯単位」（母数448件）で分析を、主観的復興感や災害関連情報認知等の年齢や居住歴等の個人の属性が想定されるものについては「個人単位」（母数763件）で分析を行った。郵送・質問紙調査の手法上、属性間のデータの偏在はあるが、適宜、変数間の統計学的検定を実施し、結果の解釈を実施した。

表IV-1 調査票配布数

	全世帯数	配布世帯数（調査票封入数）	
東連合自治会（区域全体）	3,142	807	(2,421)
錦連合自治会（区域全体）	4,579	435	(1,305)
合計	7,721	1,242	(3,726)

表IV-2 調査票回収状況

	件数（世帯）		件数（人）	
1部返信	230	51.3%	230	30.1%
2部返信	121	27.0%	242	31.7%
3部返信	97	21.7%	291	38.2%
合計	448	100.0%	763	100.0%
(回収率)	36.1%		(20.5%)	

回答者基本属性

- 男性回答率 (45.9%)・女性回答率 (54.1%)
- 年齢「10代」「20代」「30代」を合算し「30代以下」に再カテゴリ化を実施
- 居住歴の長い (20年以上) の住民の回答割合=74.0%
- 年齢別回答者の割合：60代 (22.7%)・70代 (26.1%)・80代以上 (15.6%)
- 単身世帯の回答割合 (14.3%)・4人以上世帯の回答割合 (25.5%)

問01 あなたご自身についておうかがいいたします。ひとつずつ○印を記入

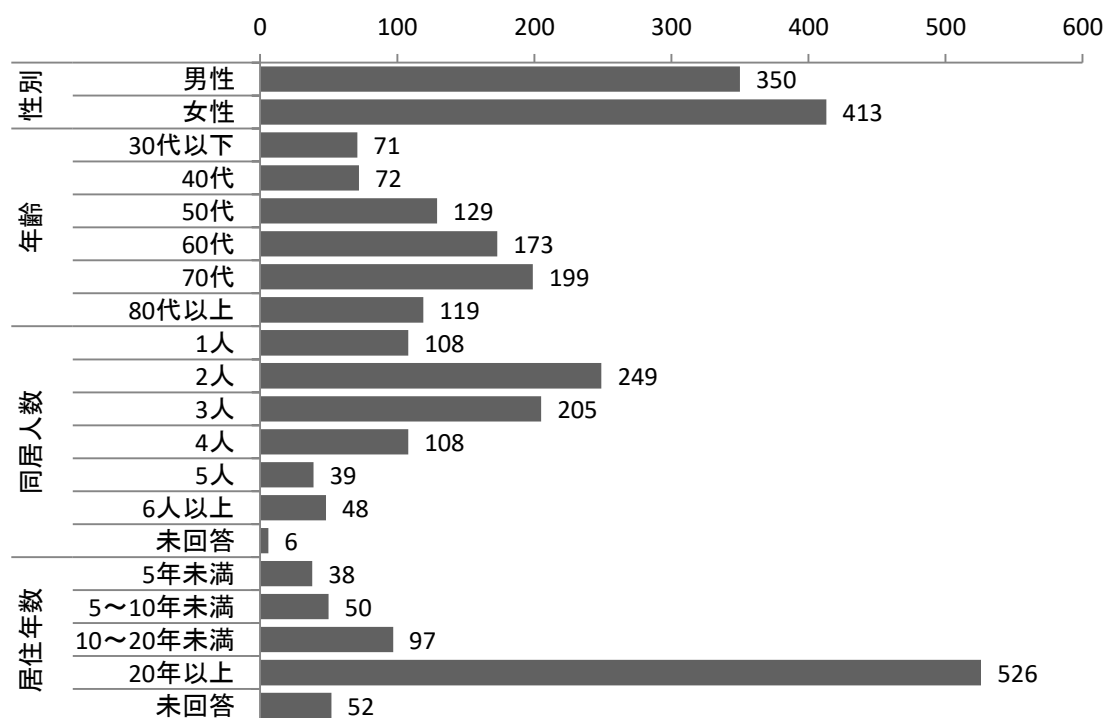
性別	1. 男性	2. 女性	3. その他	
年齢	1. 10代	2. 20代	3. 30代	4. 40代
	5. 50代	6. 60代	7. 70代	8. 80代以上
同居状況 (自分を含む)	1. 1人	2. 2人	3. 3人	4. 4人
	5. 5人	6. 6人以上		
居住歴	1. 5年未満	2. 5～10年	3. 10～20年	4. 20年以上

本調査の回答者基本属性を表IV-3と図IV-5に示す。回答者の年齢のうち、10代、20代からの回答者が少なかったことから、これを「30代」と合算して「30代以下」に再カテゴリ化を実施した。年齢別では70代と80代以上をあわせて41.7%を占めたほか、居住年数が20年以上の割合は、全体で74.0%を占めた。

表IV-3 回答者基本属性 (表)

	項目	人数	割合
性別	男性	350	45.9%
	女性	413	54.1%
年齢	30代以下	71	9.3%
	40代	72	9.4%
	50代	129	16.9%
	60代	173	22.7%
	70代	199	26.1%
	80代以上	119	15.6%

	項目	人数	割合
同居人数	1人	108	14.3%
	2人	249	32.9%
	3人	205	27.1%
	4人	108	14.3%
	5人	39	5.2%
	6人以上	48	6.3%
	未回答	6	—
居住年数	5年未満	38	5.4%
	5～10年未満	50	7.0%
	10～20年未満	97	13.6%
	20年以上	526	74.0%
	未回答	52	—



図IV-8 回答者基本属性 (図)

り災証明手続き状況

- り災手続きを行っていない世帯のうち「浸水（あり）」の世帯数：57世帯
- 未手続理由（不要判断）→「43世帯」、未手続理由（方法不明）→「14世帯」
- 未手続理由（不要判断）の内訳→「床下浸水（30世帯）」・「床上浸水（4世帯）」
- 未手続理由（方法不明）の内訳→「床下浸水（11世帯）」・「床上浸水（2世帯）」
- 未手続理由（不要判断）の内訳→「復旧支出金額（1～25万円）（9世帯）」
- 未手続理由（方法不明）の内訳→「復旧支出金額（1～25万円）（4世帯）」

問02 あなたは、台風19号の後に、家屋等の被災状況を証明する「り災証明」の手続きを行いましたか？「1」に回答した人は理由をひとつ選んでください。

1. 手続きを行っていない 2. 手続きを行った（→問03へ）

1. 浸水していないから 2. 浸水したが不要と判断 3. 浸水したが方法が不明

表IV-5 り災証明手続き状況

	世帯数	理由	内訳（世帯数）	割合
手続き（未）	239	浸水（なし）	173	75.2%
		浸水（あり）不要判断	43	18.7%
		浸水（あり）方法不明	14	6.1%
		未回答	9	—
手続き（済）	206	—	—	—

表IV-6 り災証明手続き（未）の理由別浸水状況・復旧支出金額

	項目	浸水あり （不要判断・n=43）	浸水あり （方法不明・n=13）
浸水状況	床下浸水	30	11
	床上浸水	4	2
復旧支出金額	支出なし	32	9
	1～25万円	9	4
	50～100万円	2	0

被害状況・浸水状況

- 被害状況「半壊」(85世帯・43.1%)、「一部破損」(111世帯・56.3%)
- 浸水状況では「床下浸水」(94世帯・37.5%)、「床上浸水」(157世帯・62.5%)
- 「床上浸水」割合→60%超
- 改訂洪水ハザードマップ(2019年3月版)の浸水想定域内で災害発生
- 田川右岸の県庁前通り以南、宇商通東側の地域で被害が集中発生

問03 あなたご自身のお住まいの被害状況についておうかがいします。

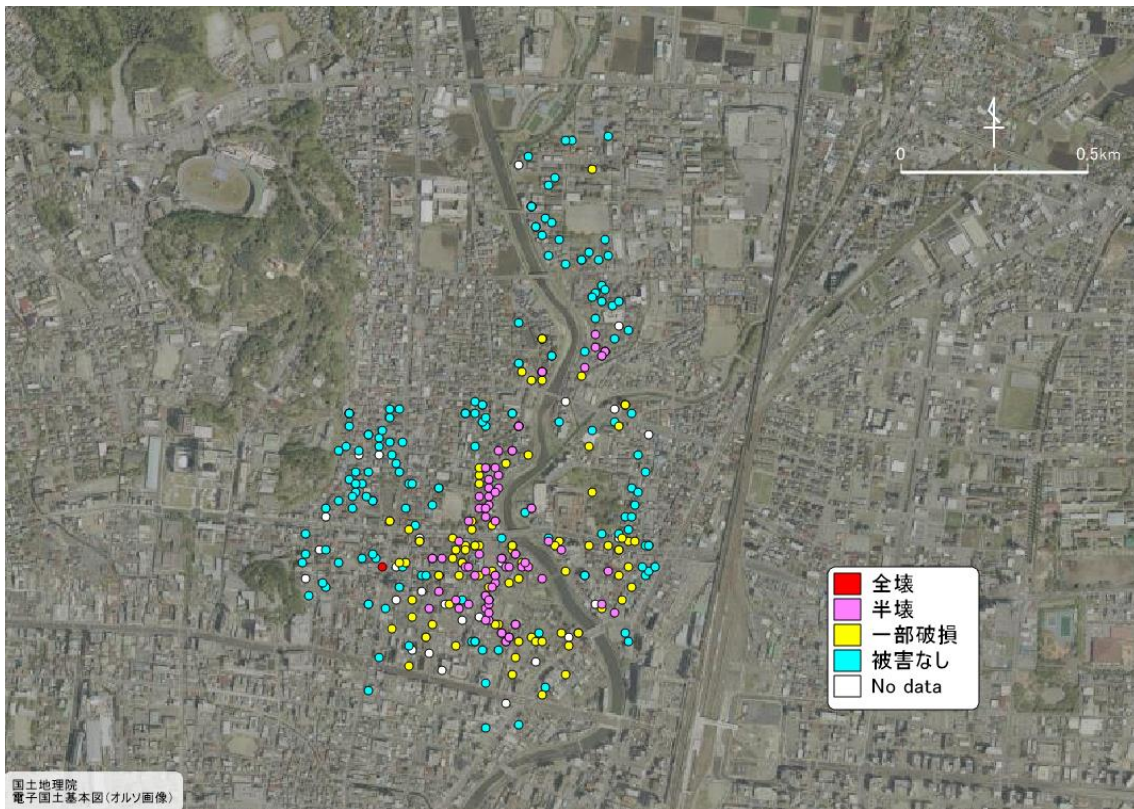
被害状況	1. 全壊	2. 半壊	3. 一部損壊	4. 被害なし
浸水状況	1. 床下浸水	2. 床上浸水	3. 被害なし	

表IV-7 本調査対象地における被害状況・浸水状況(単位:世帯)

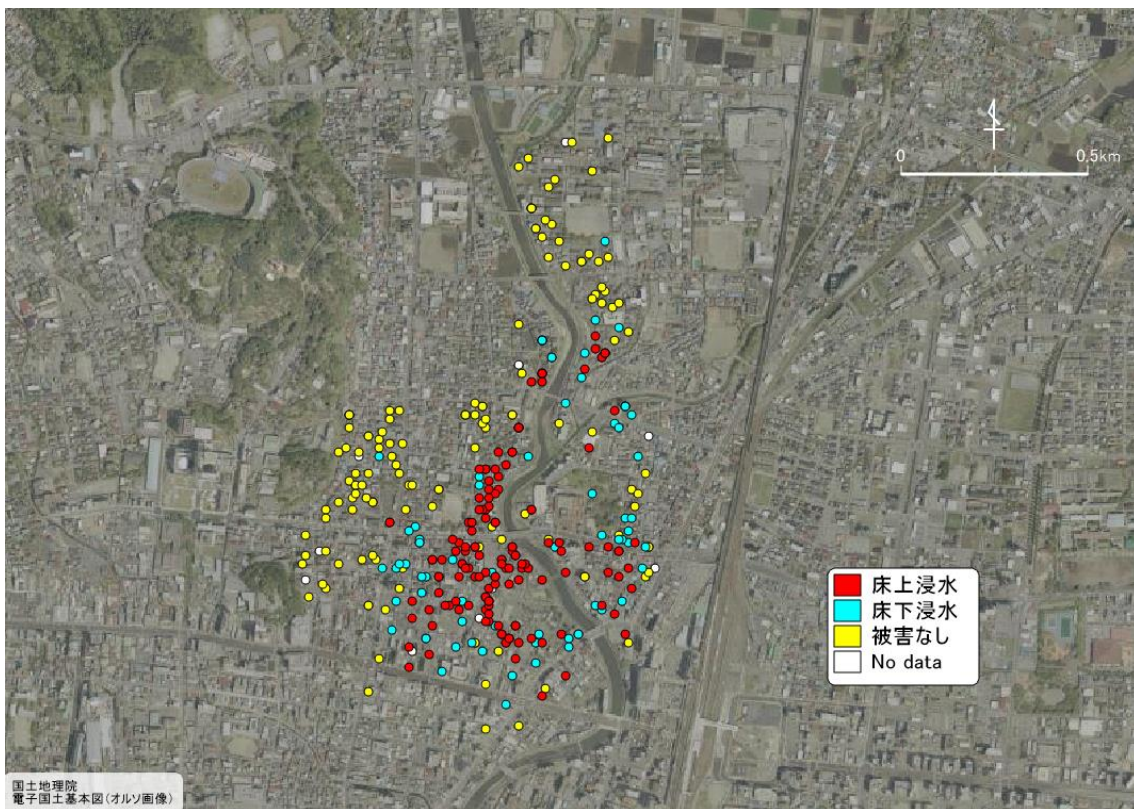
	項目	世帯数	割合
被害状況 (n=338)	全壊	1	0.5%
	半壊	85	43.1%
	一部破損	111	56.3%
	被害なし	191	—
浸水状況 (n=412)	床下浸水	94	37.5%
	床上浸水	157	62.5%
	被害なし	161	—

被害状況別では、「半壊」(85世帯・43.1%)、「一部損壊」(111世帯・56.3%)の被害が発生しており、浸水状況別では「床下浸水」(94世帯・37.5%)、「床上浸水」(157世帯・62.5%)の回答が得られた(表IV-7)。回答世帯のうち住所記入のある世帯について、位置情報(緯度・経度)への変換を行ったうえで、GIS(地理情報システム)を用いて地図化した結果を、被害状況地図(図IV-10)、浸水状況地図(図IV-11)に示す。

両図より、田川右岸地域の被害は、概ね東地区中心部を南北に走る「宇商通り」以東で発生しており、東塙田1丁目および、千波町の田川近傍地域において被害の集中がみられた。また、河川近傍地域ほど「半壊」および「床上浸水」世帯の割合が多く、その外縁に「一部損壊」と「床下浸水」が発生している。田川左岸地域の被害は、旧奥州街道以西で発生しており、主に県庁前通り以南において、右岸と同様の傾向で被害の集中がみられた。



図IV-10 被害状況地図



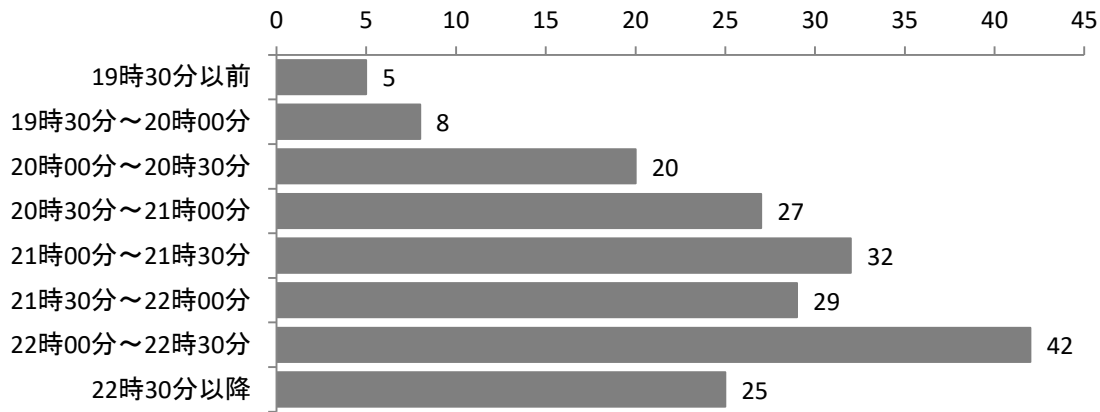
図IV-11 浸水状況地図

浸水開始時間

- 20 時台から排水不良等に伴う内水氾濫と想定される域内浸水が発生
- 宇都宮市被害報（公式）氾濫発生時刻（22:30）より早い段階で域内の広域浸水発生
- 18 時台の時間降雨量 47.0 ミリ
- 19 時台から 22 時台まで連続 4 時間で時間 30 ミリ以上の降雨
- 18 時 30 分過ぎには田川水位が天端付近に到達（河川近傍居住者撮影・写真IV-1）

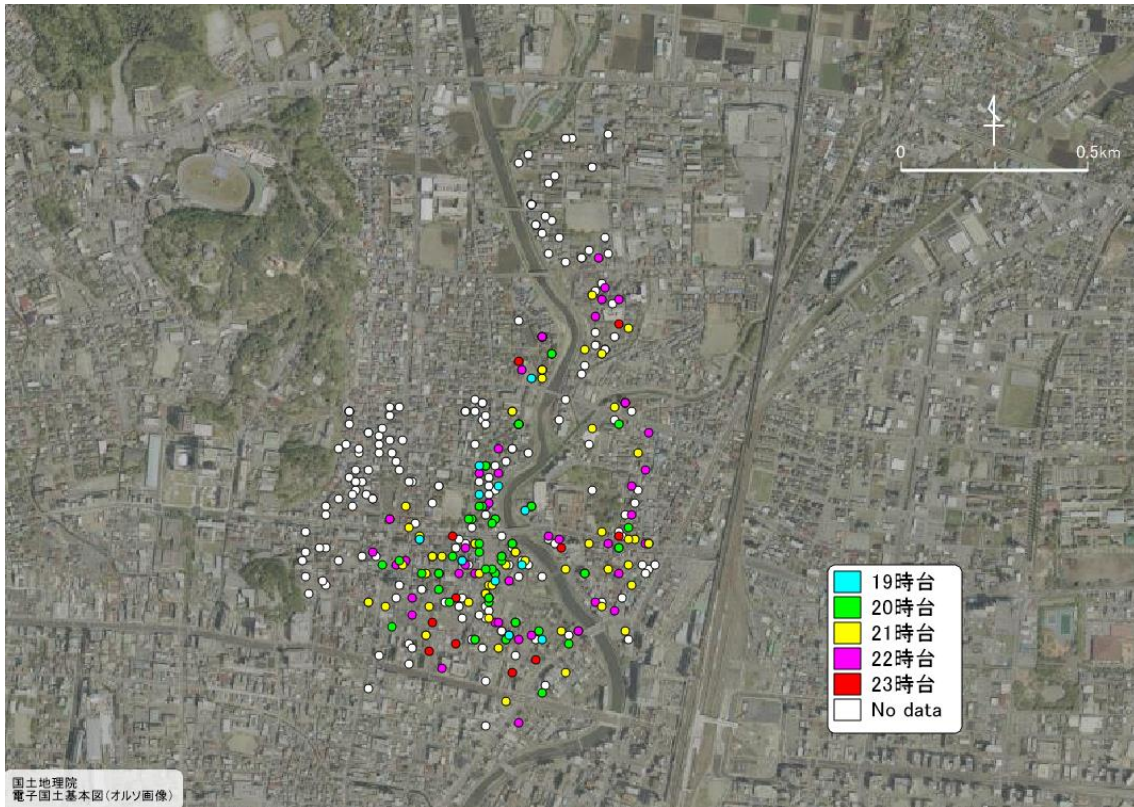
問 05 田川から溢れたと思われる水がご自宅に到達したのはいつ頃ですか？
 ※記入例（午後 9 時 30 分→21 時 30 分，午後 10 時 00 分→22 時 00 分）

1. 10 月 12 日（土）			時		分頃
2. 到達していない	3. わからない				



図IV-12 浸水発生時間

本調査では、被災者の災害記憶から浸水発生時間を取得し、併せて、時間帯別に地図化を行いその状況に関する検討を行った。宇都宮市の被害報では、10月12日、午後10時30分に田川の氾濫発生情報が発表されている（第Ⅲ章参照）が、本調査の結果、午後7時台から右岸の河川近傍地域では浸水が発生しはじめており（図IV-12）、午後8時台には左岸を含む広い範囲でその状況がみられた（図IV-13）。また、午後9時台では、より外縁まで浸水地域が発生していることが明らかになった。被災地でのヒアリング調査において、千波町では20時台の浸水発生（家屋内浸水など）があったことが表明された。図IV-13に時間別の浸水発生時間地図を、写真IV-1に被災者から提供された田川増水時の写真を示す。



図IV-13 浸水発生時間地図



2019/10/12 18:32 東橋・右岸から撮影
(提供：尾引壯一氏) 東塙田1丁目居住



2019/10/12 時刻不明 東橋右岸から撮影
(提供：鈴木伊知郎氏) 千波町居住

写真IV-1 田川近傍居住者によって撮影された田川増水時の様子

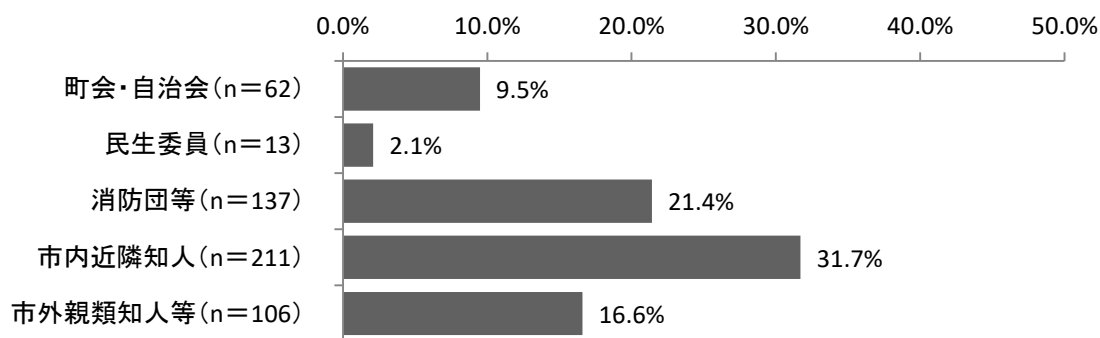
田川の水位は、18時30分頃には既に天端付近にまで達しており(写真IV-1)、域内では排水不良等が発生していたと考えられる。また気象庁データでは、18時における時間降水量は47.0ミリに達しており、この後、19時台から22時台まで4時間にわたり時間30ミリ以上の降雨が連続して発生していたことが溢水・浸水の背景にあるものと想定される。

避難等の呼びかけ状況

- 第1位「市内近隣知人」31.7%
- 第2位「消防団等」21.4%
- 第3位「市外親類知人等」16.6%
- 市内・市外のパーソナルネットワークによる声掛けの「共助」が一定程度機能

問06 台風19号の際に下記項目の人から避難等の呼びかけはありましたか？

町会・自治会	1. 無（なかった）	2. 有（あった）
民生委員	1. 無（なかった）	2. 有（あった）
消防団	1. 無（なかった）	2. 有（あった）
宇都宮 <u>市内</u> の知人・近所の人	1. 無（なかった）	2. 有（あった）
宇都宮 <u>市外</u> の知人・親類等	1. 無（なかった）	2. 有（あった）



図IV-14 避難等の呼びかけ「有（あり）」の割合：単位（世帯）

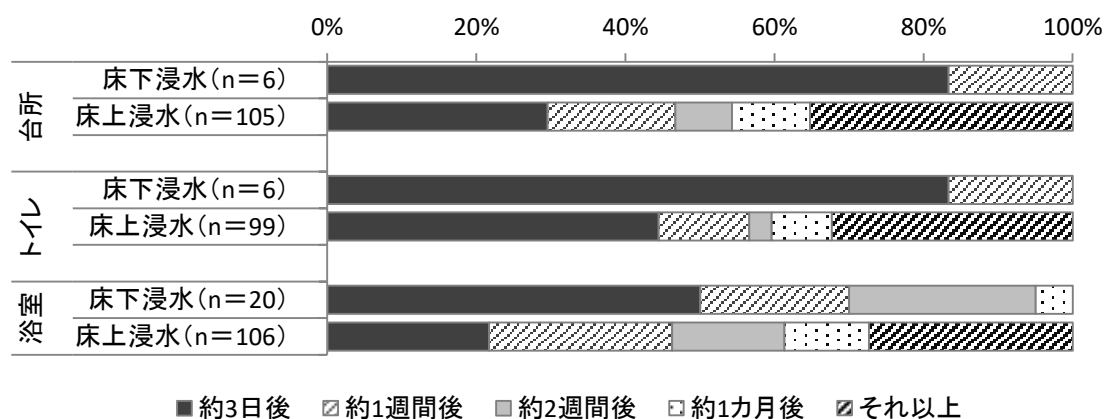
避難等の呼びかけ（図IV-14）で最も多かったのは「宇都宮市内の知人・近所の人（市内近隣知人）」の211人（31.7%）であり、次いで「消防団等」の137人（21.4%）であった。また、「宇都宮市街の知人・親類等（市外親類知人等）」も106人（16.6%）あり、市内・市外のパーソナルネットワークによる声掛けの「共助」がみられ、避難江東等において一定程度機能を発揮したものと想定される。

生活設備使用再開時期

- 「床下浸水」より「床上浸水」において生活設備の使用再開に長期間を要した
- 床上浸水世帯・通常再開まで1カ月以上を要した割合「台所」(35.2%)
- 床上浸水世帯・通常再開まで1カ月以上を要した割合「トイレ」(32.3%)
- 床上浸水世帯・通常再開まで1カ月以上を要した割合「浴室」(27.3%)
- 屋外設置のボイラ・給湯機器の浸水被害による水回りの生活設備使用再開障壁

問07 以下の項目について、水害前と同じように使えるようになった時期はいつ頃ですか？あてはまる(+)印の箇所にとつずつ○印を記入してください。

	被害なし	約3日後	約1週間後	約2週間後	約1か月後	それ以上
台所	+	+	+	+	+	+
トイレ	+	+	+	+	+	+
浴室	+	+	+	+	+	+



図IV-15 浸水状況別・生活設備使用再開時期 (台所・トイレ・浴室) (単位：世帯)

災害からの復旧・復興生活において生活基盤を構成する「台所」「トイレ」「浴室」は重要な生活設備であり、この復旧速度がその後の生活再建に影響を及ぼすことが想定される。本調査の結果、いずれの設備も「床下浸水」よりも「床上浸水」の方が長期にわたって使用ができない状態が継続しており、このうち一か月以上かかった割合は、「台所」(35.2%)、「トイレ」(32.3%)、「浴室」(27.3%)であった(図IV-15)。

自家用車の避難・被災状況

- 高い自動車保有率（78.1%）
- 自動車の移動避難あり（29.9%）
- 自動車の移動避難なしのうち、45.3%が自動車被災あり
- 保険未加入での自動車再購入において家計の圧迫・復興感の障壁
- 域内商業施設等との事前協定による世帯・自家用車の同時避難の検討

問08 台風19号の際のあなたの自家用車の被災・避難状況について、以下にあてはまるものに○印を記入してください。

自宅に自家用車が	1. ある	2. ない → (問09へ)
事前の車の移動避難	1. 別の場所に移動させた	2. 移動させていない
(具体的な移動場所)	↳ ()	
自宅の自家用車が	1. 被災した	2. 被災していない
水害対応の車両保険	1. 加入していた	2. 加入していない
水害後の自動車購入	1. 購入した	2. 購入していない

本調査対象地における自動車保有状況は、回答のあった439世帯中、「保有あり」(343世帯・78.1%)、「保有なし」(96世帯・21.9%)であり、高い自動車保有率となっている。自動車保有(あり)世帯に占める、発災前の自動車の移動避難状況(移動避難あり)および自家用車の被災状況(被災あり)、水害対応の車両保険加入状況(保険加入あり)および水害後の自動車購入状況(再購入あり)を表IV-8に示す。

表IV-8 自動車保有(あり)世帯に占める自家用車被災等の基本集計結果

	世帯	割合
移動避難あり	101	29.9%
自家用車被災あり	113	33.6%
車両保険加入あり	108	36.4%
自動車再購入あり	94	31.0%

注：割合は「保有あり」世帯のうち欠損値を除く数値を母数として算出

自家用車保有ありの回答欠損値をのぞく 336 世帯のうち、113 世帯 (33.6%) において自動車被災を経験している (表IV-9)。また、発災前に車両の移動避難を行った世帯のなかでも 6.1%が被災をしているが、移動避難なしとの比較では、「移動あり」の被災割合が 5.4%であったのに対し、「移動なし」の被災割合は 94.6%であった (表IV-10)。また、自動車の再購入の割合は全体では「再購入あり」の 93 世帯のうち、事前の水害対応の保険加入「なし」の割合は、39.8%であった (表IV-11)。車両の移動避難先は、被災域内の天然温泉施設「南大門」の立体駐車場のほか、宇都宮駅前の大型商業施設内の駐車場が挙げられたほか、「自宅外避難」の際に、自家用車で友人・知人・親類宅等に避難を行っていたことが示された (自由回答)。

図IV-16 に自家用車の移動避難状況地図を、図IV-17 に自家用車の被災状況地図を示す。本調査における被災者ヒアリングにおいて、保険に加入していない状況で被災した世帯では、自動車の再購入のコストが家計の圧迫や、復興感の障壁にもなっており、今後は保険によるリスク回避についても検討していく必要がある。また、近隣商業施設や公営駐車場等との事前の協議・協定により、世帯単位での自動車避難の受け入れ収容等の推進もあわせて検討していくことが求められる。

表IV-9 自家用車保有あり世帯の自動車被災状況

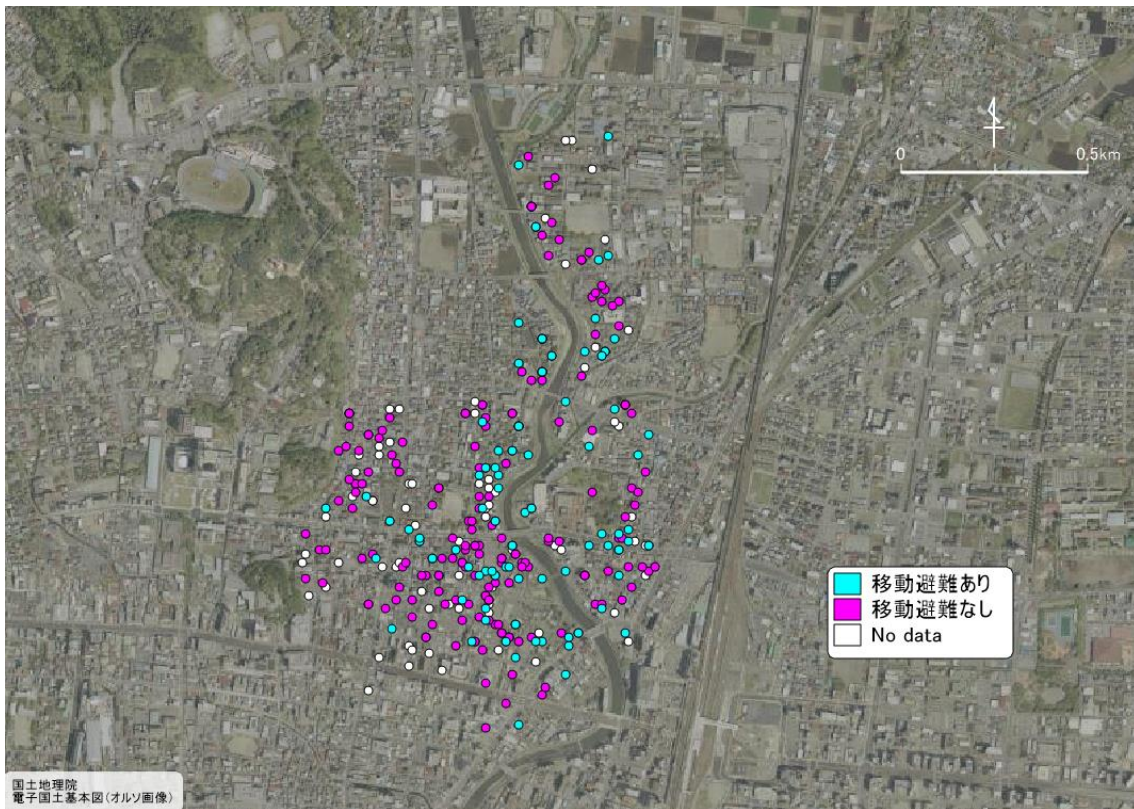
	自動車保有あり		自動車保有なし	
	世帯	列割合	世帯	割合
自動車被災あり	113	33.6%	—	
自動車被災なし	223	66.4%		
合計	336	100.0%	—	

表IV-10 自家用車移動避難の状況と被災状況

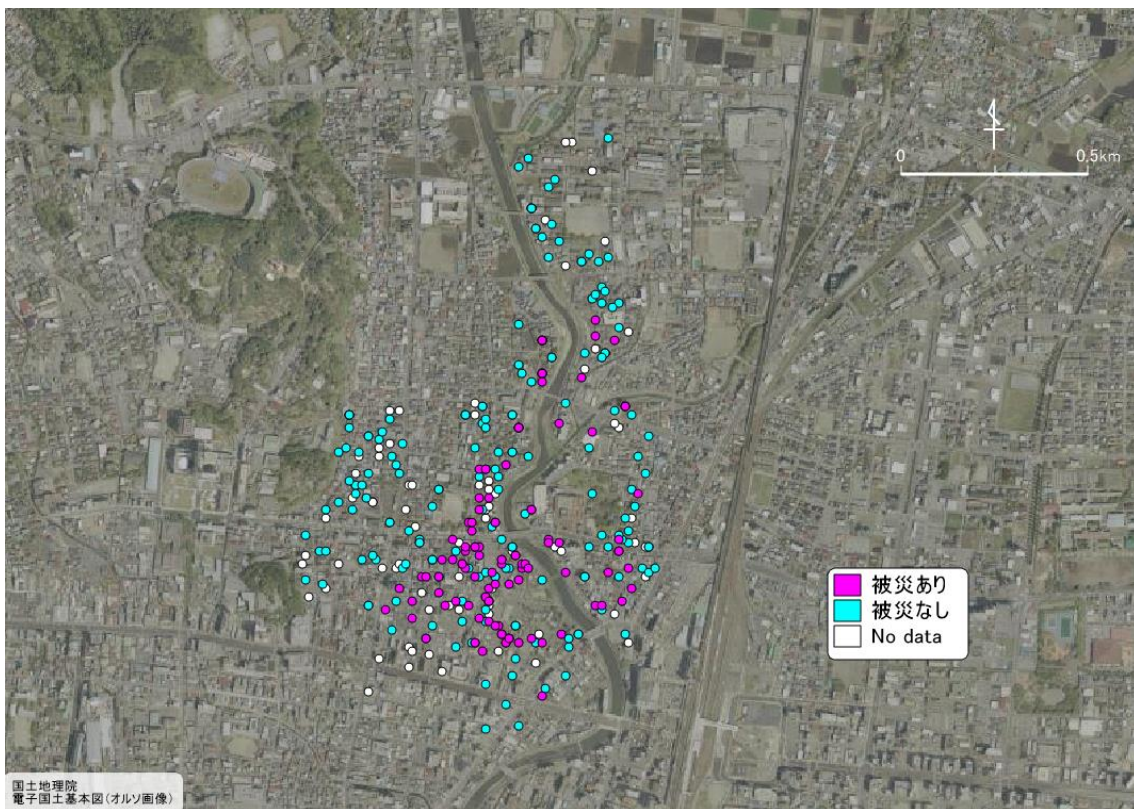
	移動避難あり			移動避難なし		
	世帯	列割合	行割合	世帯	列割合	行割合
自動車被災あり	6	6.1%	5.4%	106	45.3%	94.6%
自動車被災なし	92	93.9%	41.8%	128	54.7%	58.2%
合計	98	100.0%	29.5%	234	100.0%	70.5%

表IV-11 水害対応車両保険加入状況と車両再購入状況

	再購入あり			再購入なし		
	世帯	列割合	行割合	世帯	列割合	行割合
保険加入あり	56	60.2%	54.4%	47	24.2%	45.6%
保険加入なし	37	39.8%	20.1%	147	75.8%	79.9%
合計	93	100.0%	32.4%	194	100.0%	67.6%



図IV-16 自家用車の移動避難状況地図



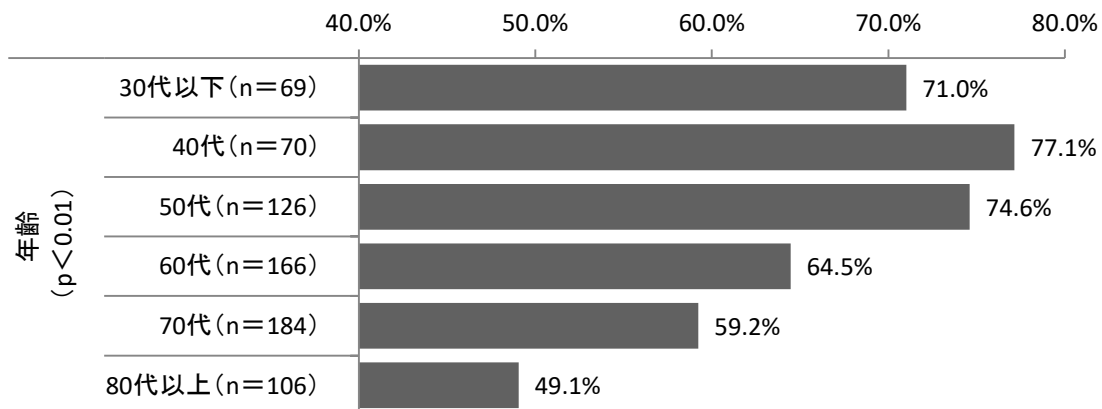
図IV-17 自家用車の被災状況地図

避難関連情報の取得状況

- 50代以下では70%以上が情報入手あり
- 60代以上では情報入手割合が減少（60代・64.5%、70代・59.2%、80代・49.1%）
- 宇都宮市防災メール 田川流域「レベル3（高齢者等は避難開始）」12日・14:04
- 宇都宮市防災メール 田川流域「レベル4（全員速やかに避難開始）」12日・19:42
- 宇都宮市防災メール 田川流域「レベル4（全員避難・緊急）」12日・20:40

問09 台風19号の際の行政（市役所）からの「避難勧告」や「避難指示」の情報を入手（電子メールやラジオ放送などで見たり聞いたり）しましたか？

1. 入手していない（聞いていない） 2. 入手した（聞いた）



図IV-18 属性別・避難関連情報等の入手者「入手した（聞いた）」割合

宇都宮市では防災メールほか、Lアラート等を通じてテレビや携帯電話に情報が発信されたが、年齢別では50代以下において70%を超す情報入手の割合がみられた反面、60代以上ではその割合は減少しており、80代以上では49.1%であった。次頁以降に、宇都宮市防災メールの受信画面を示す。本調査対象地域の田川流域では10月12日14:04に「警戒レベル3（高齢者等は避難を開始）」が発信されたほか、同日19:42に「警戒レベル4（全員速やかに避難を開始）」が発信され、20:24に宇都宮市全域を対象に「警戒レベル4（全員速やかに避難開始）」された後、20:40に田川流域に「警戒レベル4 全員避難（緊急）」が発信されている。



10/11 10:39 避難所を開設します
市内 18 カ所に避難所を開設（準備）



10/12/ 08:02 避難所を開設しました
市内 18 カ所に避難所を開設（通知）



10/12 14:04 高齢者等は避難を開始
警戒レベル 3 田川・姿川・奈坪川流域



10/12 19:35 全員速やかに避難を開始
警戒レベル 4 姿川流域



10/12 19:42 全員速やかに避難を開始
警戒レベル4 田川流域



10/12 19:57 全員速やかに避難を開始
警戒レベル4 土砂災害



10/12 20:24 全員速やかに避難
警戒レベル4 宇都宮市全域



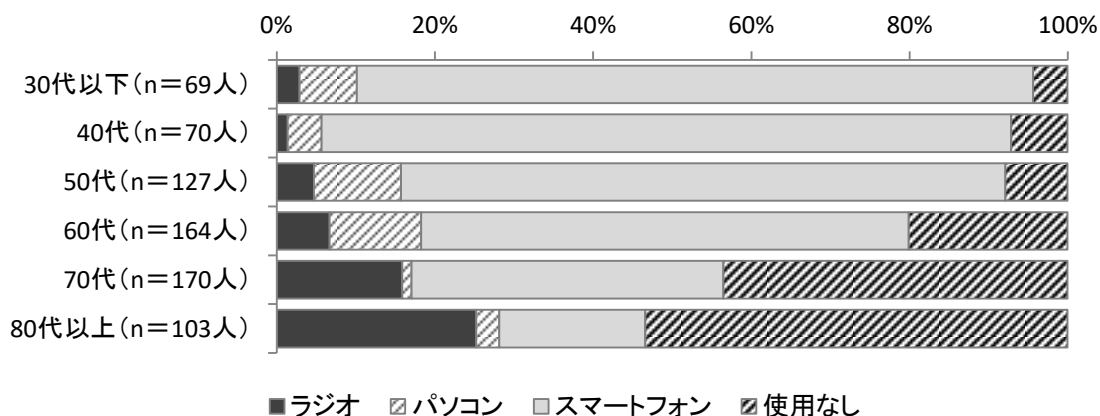
10/12 20:40 全員避難（緊急）
警戒レベル4 田川・姿川流域

災害情報取得のための情報機器

- テレビ以外の災害情報取得状況調査（70代以上では「テレビのみ」の割合が高い）
- スマートフォン：40代以下において80%以上の使用率
- スマートフォン：70代（39.4%）、80代（18.4%）
- 宇都宮市による防災ラジオの購入補助制度対象者の拡大（2020年2月以降）
- 河川近傍の警報サイレン・回転灯などの設置の要望・検討（被災者意見）

問10 台風19号に際し、あなたは何を使って情報を入手していましたか？
テレビ以外で、最も利用したものをひとつ選んで○印を記入してください

1. ラジオ 2. パソコン 3. スマートフォン 4. 使用していない



図IV-19 災害情報入手のための情報機器（テレビ以外）単位：個人（人）

災害情報の取得のための情報機器として既往研究では「テレビ」がその大きな役割を担っていることが知られているが、本調査では「テレビ以外」の機器についてその使用状況に関する質問を行った。本調査の結果、「ラジオ」は高齢者になるほどその利用率が高く、60代（6.7%）、70代（15.9%）、80代以上（25.2%）であった。一方「スマートフォン」は、40代以下では80%以上が、50代以下で70%以上の利用率がみられたが、70代以下で39.4%、80代以上で18.4%と低減がみられた。テレビ以外の情報入手機器を持たない（ラジオ・パソコン・スマートフォン等の使用なし）割合も、70代で43.5%、80代以上で53.4%と高い結果となった。宇都宮市では緊急時に市内のエフエム栃木（76.4MHz）から放送される機能を持つ防災ラジオの購入補助の拡大を2020年（令和2年）2月より実施しており、高齢者に対して、より多チャンネルでの災害情報収集の機会拡大の促進が行われている。

避難行動

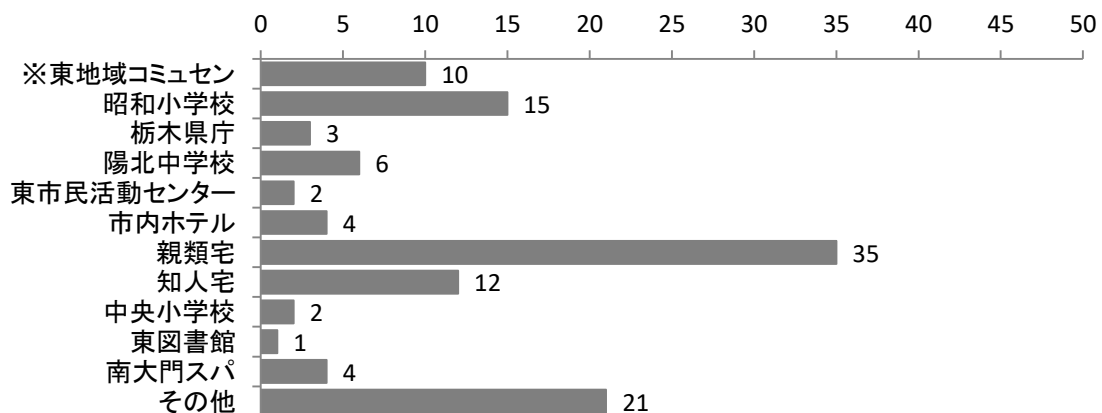
- 自宅外への世帯避難率（27.2%）115 世帯
- 東連合自治会による2段階避難「東地域コミュセン」→「昭和小学校」移動支援
- 域内避難困難者あり世帯のうち、自宅内避難の割合（233 世帯・73.5%）
- 被災中心地域から指定避難所（昭和小学校・陽北中学校）まで直線約1～1.5 km
- 東小学校（浸水想定域内のため使用不可）→階上教室内避難の検討

問11 台風19号の際のご自身の避難行動についてあてはまるものひとつに○印を記入してください（自宅の2階など以外に避難をした人は、最初に避難した場所についてお答えください）。※ 2～9に回答した人は→（問13へ）

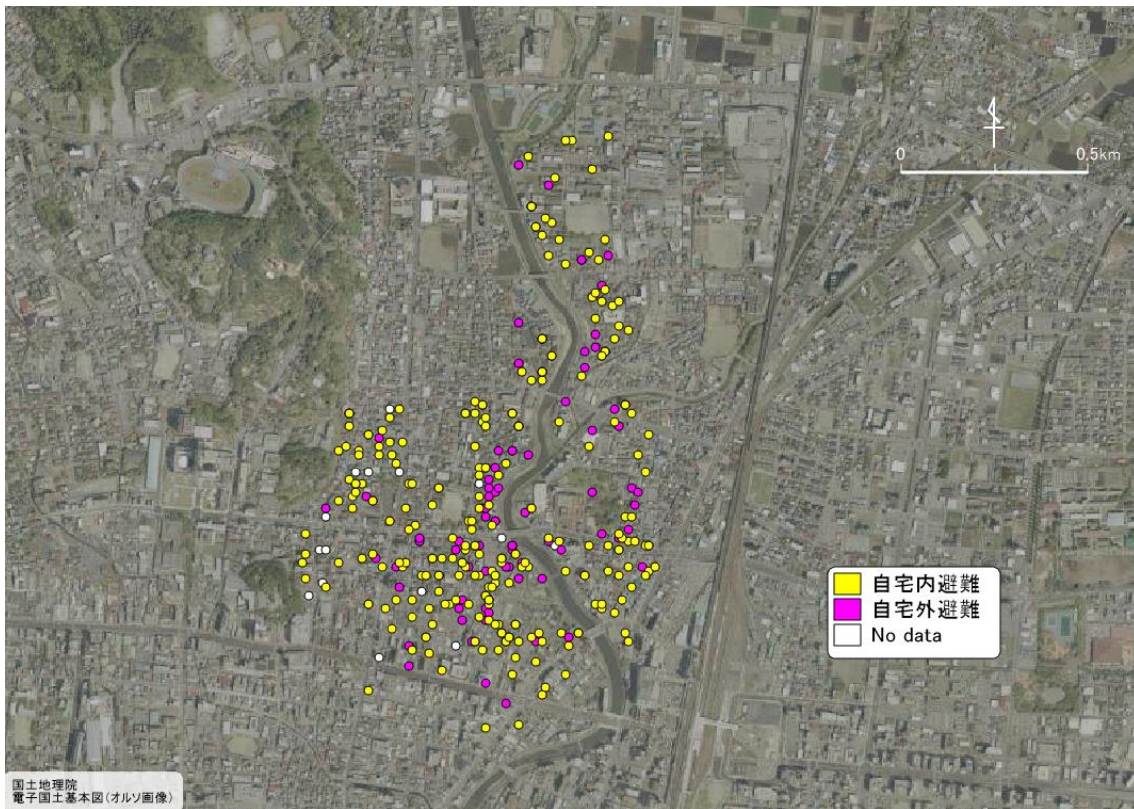
1. 自宅にとどまり、2階などへ避難 →（問12へ）
2. 東地域コミュニティセンター
3. 昭和小学校
4. 栃木県庁
5. 陽北中学校
6. 今泉小学校
7. 東市民活動センター
8. 錦地域コミュニティセンター
9. その他（ ）

表IV-12 自宅内避難と自宅外避難の世帯数と割合

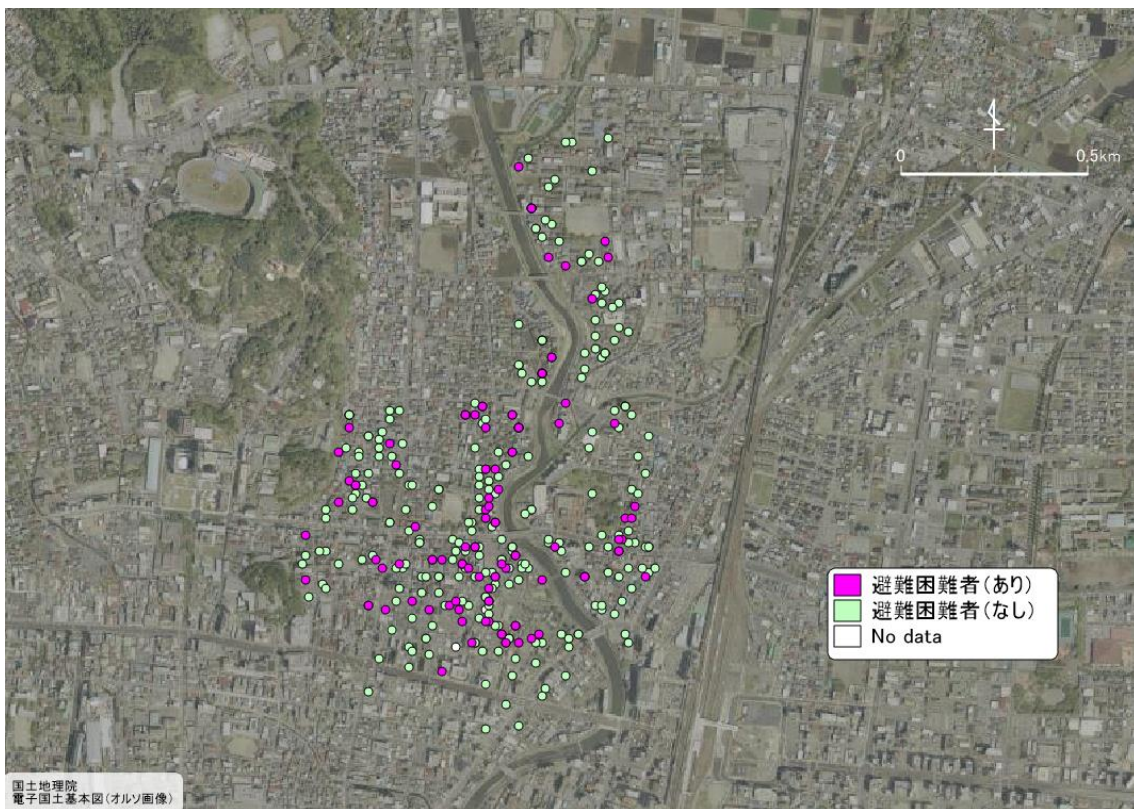
	世帯数	割合
自宅内避難	308	72.8%
自宅外避難	115	27.2%



図IV-20 自宅外避難世帯の避難先



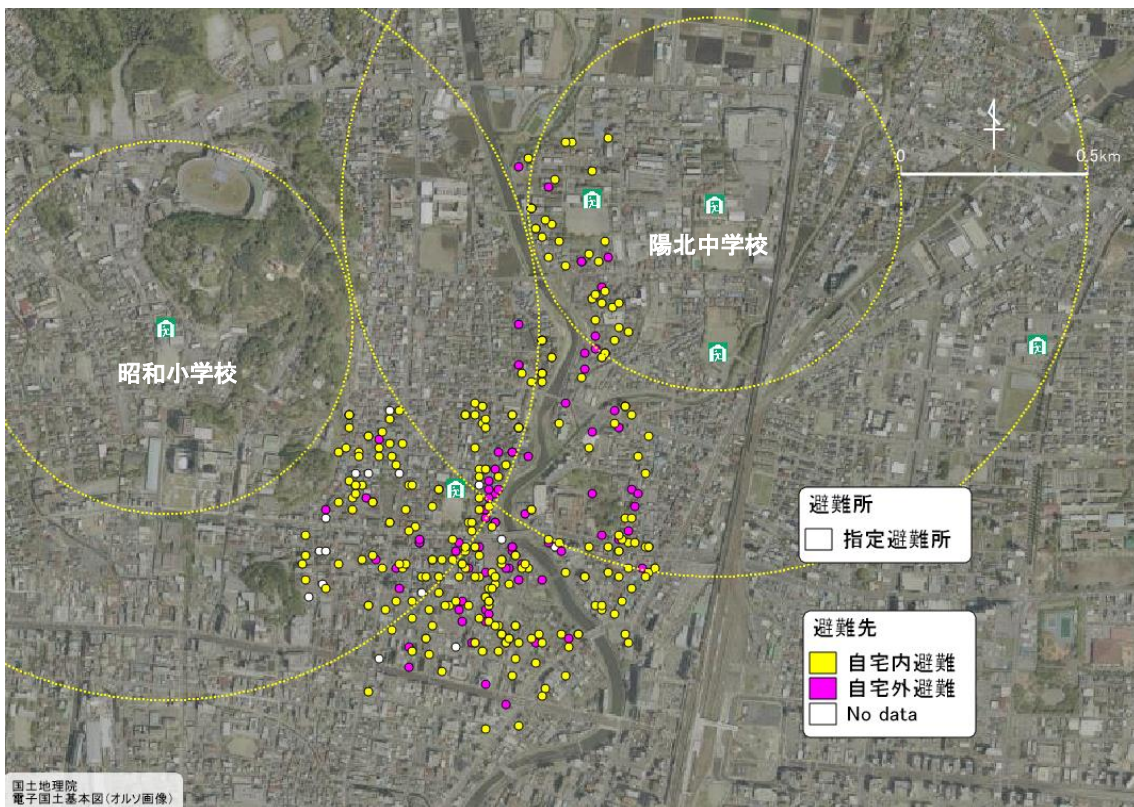
図IV-21 自宅内避難・自宅外避難の世帯地図



図IV-22 避難困難者(あり)・避難困難者(なし)の世帯地図



図IV-23 本調査対象地域の指定避難所位置



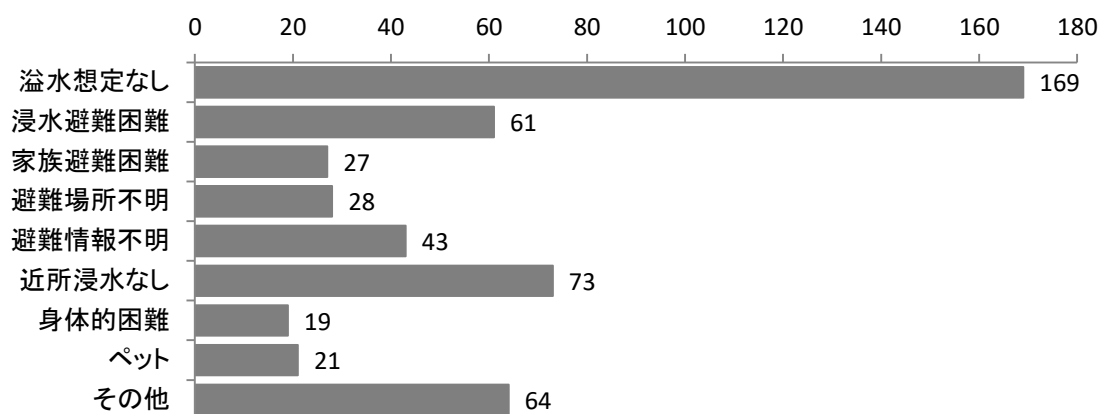
図IV-24 指定避難所からの距離圏域と自宅内避難・自宅外避難の世帯地図

自宅内避難理由

- 溢水想定なし（169世帯・54.9%）
- 「家族避難困難者あり」と「身体的困難あり」（46世帯・14.9%）
- 「家が浸水し避難できなかった（浸水避難困難）」（61世帯・19.8%）
- 「避難場所不明」（28世帯・9.1%）
- 「避難情報不明」（43世帯・14.0%）

問12 問11で「1.自宅にとどまり2階などへ避難」した人のみ回答してください。自宅にとどまった理由のうち、最もあてはまるもの3つ以内に○印を記入。→ 回答後、問15へ

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 河川が溢れると思わなかったから | 2. 家が浸水し避難できなかった |
| 3. 家族に避難困難者がいたから | 4. 避難場所が分からなかったから |
| 5. 避難に関する情報がなかったから | 6. 家や近所が浸水しなかったから |
| 7. 身体的に自分自身での避難が困難 | 8. ペットがいるから |
| 9. その他（具体的な理由 | ） |



図IV-25 自宅内避難の理由（単位：世帯）

自宅内避難 308 世帯のうち、その理由において「河川が溢れると思わなかったから（溢水想定なし）」が最も多く 169 世帯（54.9%）であったほか、少数ではあるものの、「ペットがいるから」（21 世帯・6.8%）を理由に自宅内で避難を継続した世帯もみられた（図IV-25）。

自宅外避難理由と避難開始時間

- 自宅外避難理由「ハザードマップを見ており自身で避難判断」(28世帯・24.3%)
- 「防災メール受信」「警戒レベル発表」「テレビ報道」→災害情報取得による避難
- 自宅外避難開始時間 18:00～22:00 間で 74.4%が避難
- 日没以降の夜間・内水等による既浸水域内の遠距離水平避難（二次災害危険性）

問 13 問 11 で「2～9」の自宅以外の場所へ避難した人は、以下の質問に回答してください。避難を開始した時間とそのきっかけを回答後、問 14 へ
 ※記入例（午前 9 時 30 分→09 時 30 分，午後 10 時 00 分→22 時 00 分）

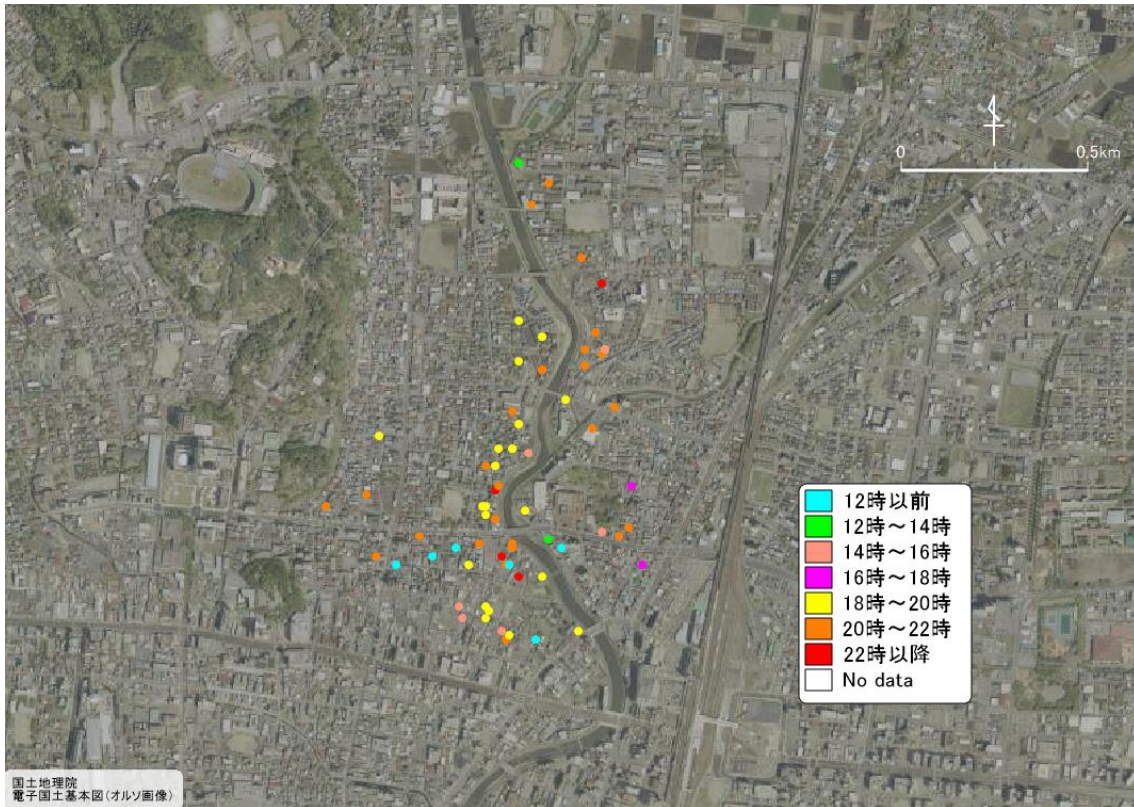
1. 10月12日(土)				時			分頃
--------------	--	--	--	---	--	--	----

避難をしたきっかけのうち最もあてはまるもの 3 つ以内に○印を記入

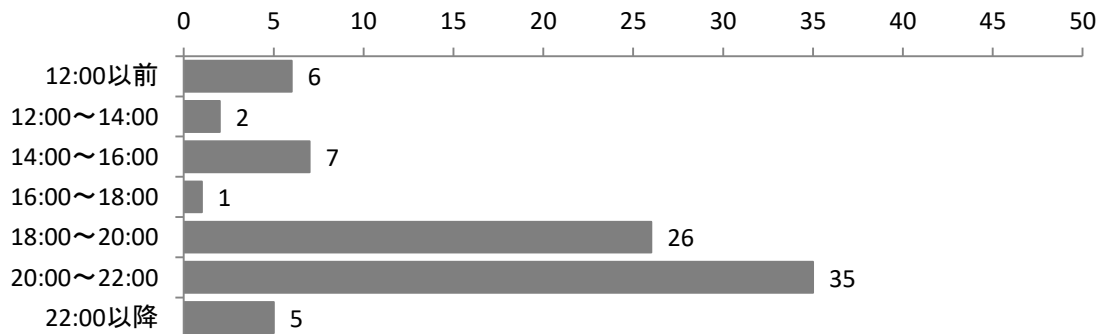
- | | |
|----------------------------------|-------------------|
| 1. 自宅が浸水し始めたから | 2. 市の防災メールを受信したから |
| 3. 警戒レベル 4（全員避難）の発表 | 4. 近隣の声がけがあったから |
| 5. テレビ等の報道を観たから | 6. 消防団等の声がけがあったから |
| 7. 以前からハザードマップを見ており自分で避難の判断をしたから | |

自宅外への避難開始時間の記入世帯（115 世帯）のうち、千波町において午前中の早い段階で避難を開始した世帯がみられたが（図IV-26）、このうち時間記入者（82 世帯）の内訳をみると、18:00～20:00 で 26 世帯（31.7%）、20:00～22:00 で 35 世帯（42.7%）となっており、同時間帯で 74.4%が自宅外への避難を行ったことが示された（図IV-27）。自宅外への避難開始の契機では、「警戒レベルの発表」（31 世帯）、およびこれに関連すると思われる「防災メール受信」（23 世帯）、「テレビ報道」（26 世帯）などが多くみられた（図IV-28）。また、「以前からハザードマップを見ており自分で避難の判断をしたから（ハザードマップ）」は 28 世帯（24.3%）あり、事前の地域のリスク認知の重要性が示唆された。

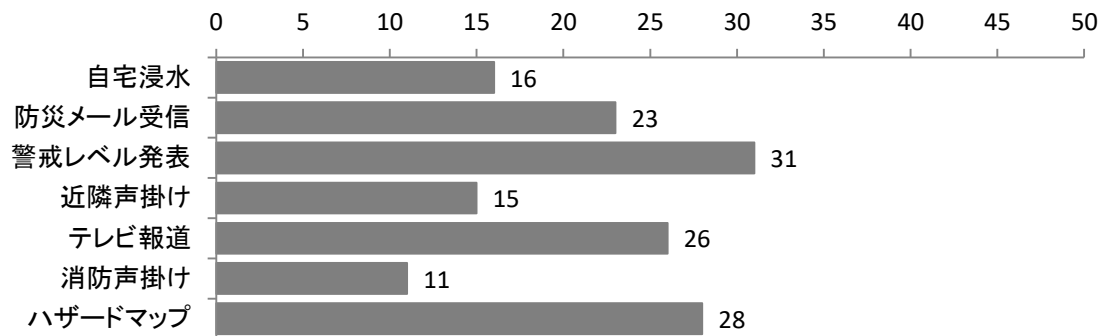
本地域は図IV-13 に示す浸水発生時間地図の通り、19 時台には排水不良等により内水氾濫が発生していたことが想定される中で、同日の宇都宮市の日の入り時刻（17:09）以降、夜間の遠方への避難は、二次災害発生危険性の危険性も有していたことも想定される。早期の避難は重要であるが、自宅内での階上等への垂直避難についても家族内で認識の統一を図ると同時に、地域間での迅速な安否確認等を実行するための方策を併せて検討していくことが課題である。



図IV-26 自宅外避難における避難開始時間地図（世帯）



図IV-27 自宅外避難における避難開始時間の分布（世帯）



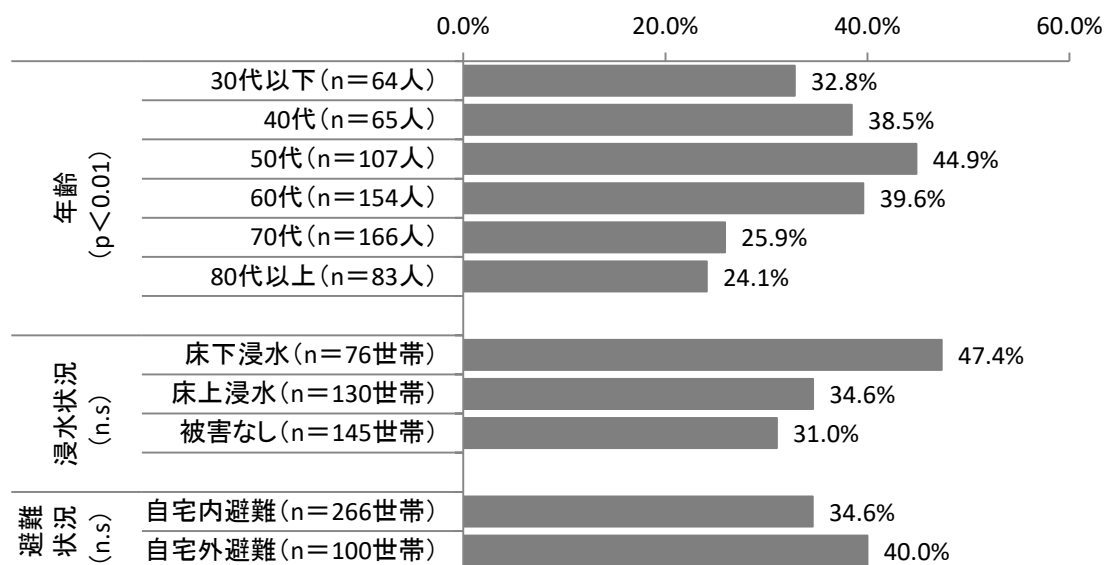
図IV-28 自宅外避難開始の契機

災害後の備え

- 災害後の備えありの割合は50%以下
- 50代(44.9%), 70代(25.9%), 80代以上(24.1%)
- 災害後の備えの内容「大切なものを二階に移動」
- 災害後の備えの内容「室外機の設置場所の見直し(高い場所に設置)」
- 災害後の備えの内容「水・食料等の備蓄準備」

問15 台風19号の後、あなたの家庭で災害への備えとして行ったことはなんですか? 「2.あり」に回答した人は具体的な内容を記入してください。

1. なし 2. あり(具体的な内容:)



図IV-29 属性別・災害後の備え「あり」の割合

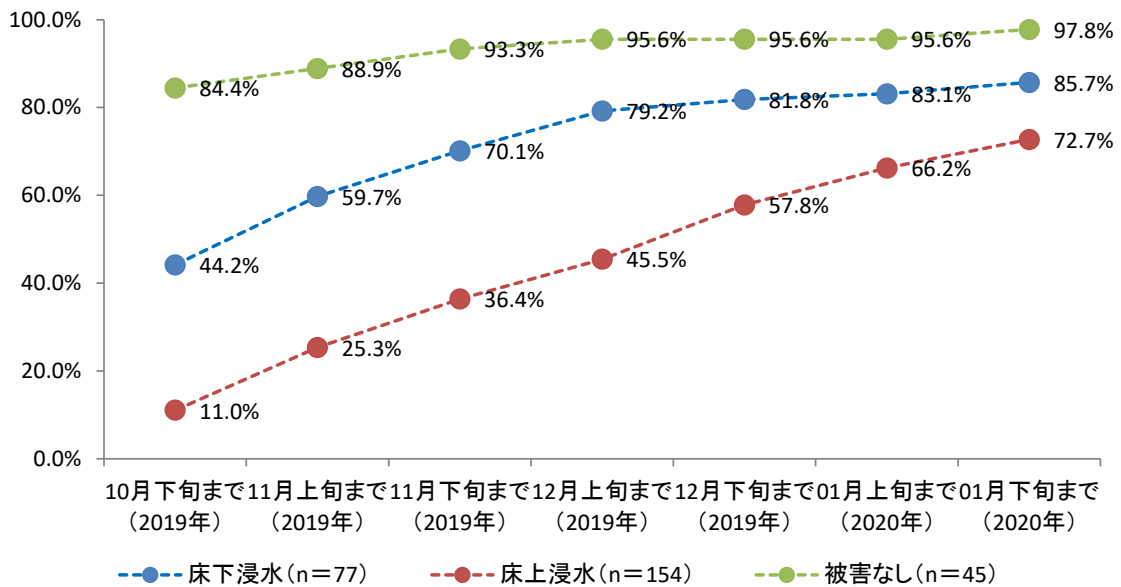
台風第19号による被災後の備えの実施状況において、備え「あり」の割合のうち年齢別では、50代が107人(44.9%)と最も多く、30代、40代、60代においていずれも30%を超えているが、70代では25.9%、80代以上では24.1%にとどまっている(図IV-29)。具体的な取り組みの内容では、「大切なものを一階に置かない(二階に移動させた)」や「水や食料の備蓄」が多くみられた。また、浸水によりエアコンの室外機が故障した世帯も多かったことから「設置場所の見直し(高い場所に設置しなおし)」などの対策がみられた。

家財片付け等の完了時期

- 「床下浸水」より「床上浸水」のほうが、完了時期が遅延・遅滞
- 片付け等完了世帯割合 50%超の時期「床下浸水」（10 月下旬～11 月上旬）
- 片付け等完了世帯割合 50%超の時期「床上浸水」（12 月上旬～12 月下旬）
- 「床下浸水」における発災から三か月半後の「未完了」の割合（14.8%）
- 「床上浸水」における発災から三か月半後の「未完了」の割合（27.3%）

問 16 被災後の家財片付けや洗浄などの作業は概ねいつ頃終わりましたか？

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 10 月下旬まで | 2. 11 月上旬まで |
| 3. 11 月下旬まで | 4. 12 月上旬まで |
| 5. 12 月下旬まで | 6. 1 月上旬まで（2020 年） |
| 7. 1 月下旬まで（2020 年） | 8. 現在もまだ完了していない |



図IV-30 家財片付け等の完了時期の累積曲線

1 カ月を「上旬」と「下旬」のおよそ 2 週間単位で 2 分割し、家財等の片付け等が完了した時期の回答結果を累積曲線で描画すると、被災世帯の半数（50%）を超えた時期は床下浸水が 11 月上旬までであったのに対し、床上浸水は 12 月下旬まで時間を要しており、発災から約 3 か月半後の 2020 年 1 月下旬においても未完了が 27.3%存在している（図IV-30）。

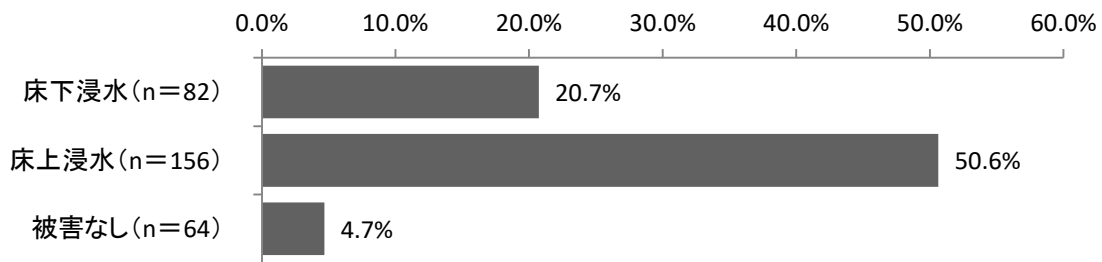
被災後の受援状況

- 床上浸水 156 世帯のうち 50.6%の世帯がボランティア受援の経験あり
- 床下浸水 82 世帯のうち 20.7%の世帯がボランティア受援の経験あり
- 宇都宮市災害ボランティアセンター（宇都宮市社会福祉協議会）運営
- ボランティア受付件数 1,129 人（延べ）・ボランティア活動件数 265 件（図Ⅳ-32）
- ボランティアセンター開設期間（2020年10月16日～2021年3月31日）

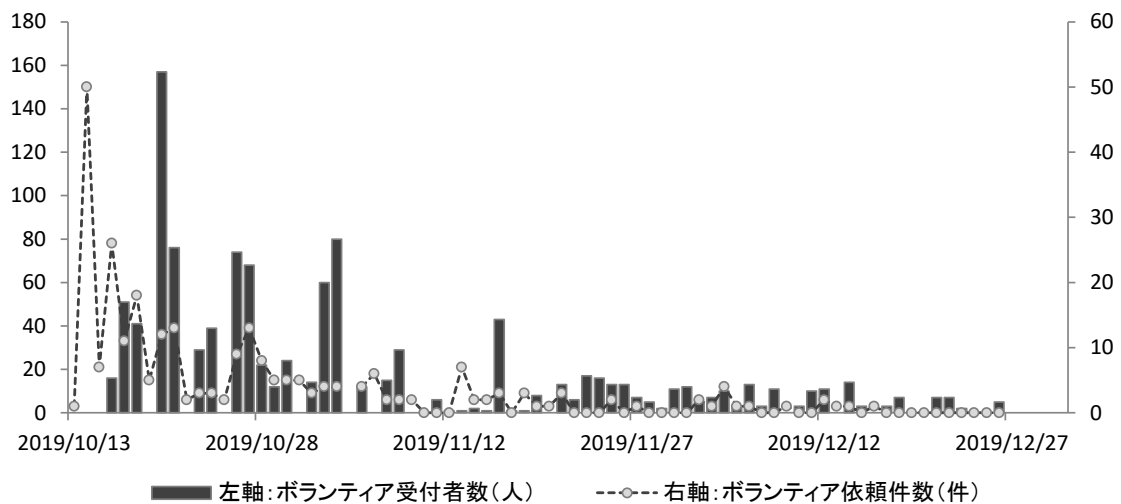
問 17 被災後の家財片付けや洗浄などは家族・親族以外で、ボランティア等の支援を受けましたか？あてはまる方に○印を記入してください。

1 支援を受けた

2 支援を受けていない



図Ⅳ-31 浸水被害状況別・ボランティア等の支援を受けた受援割合



図Ⅳ-32 宇都宮市災害ボランティアセンター活動状況

注：宇都宮市社会福祉協議会資料より作成（2019/10/16～2019/12/27）

被災後の家財購入状況

- 「床上浸水」被害世帯の家財被害に伴う家財の買替・新規購入割合（高）
- 「床下浸水」被害世帯においてもエアコン室外機の浸水等により買替実施
- 「床上浸水」による電化製品被害割合（高）
- ボランティアによる浸水被害後の家財等の搬出あり
- 高齢世帯等において災害廃棄物の搬出負荷（高）

問 18 被災後に新たに購入した家財等についてあてはまるものにすべてに○印を記入してください（購入していない場合は未記入のまま、問 20 へ）。

- | | |
|-------------------|--|
| 1. テレビ | 2. 冷蔵庫 |
| 3. 電話機・FAX | 4. パソコン |
| 5. 電子レンジ | 6. 寝具類（ふとん等） |
| 7. テーブル・タンス・棚等の家具 | 8. 洗濯機 |
| 9. エアコン | 10. その他（ ） |



写真IV-2 宇都宮市内の災害廃棄物



写真IV-3 東横田清掃工場の災害廃棄物

表IV-13 浸水状況別・家財新規購入の割合（単位母数：世帯）

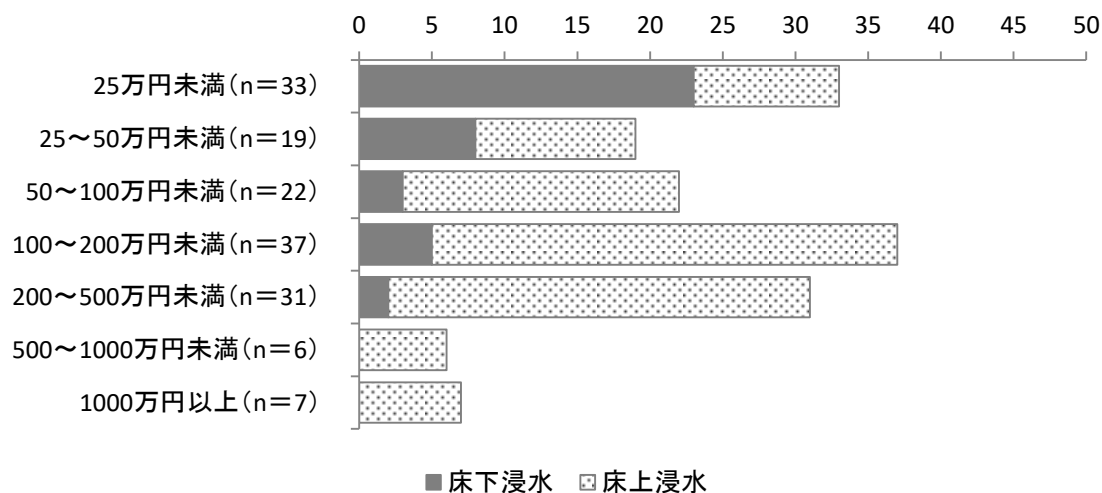
	床下浸水	床上浸水		床下浸水	床上浸水
テレビ	0.0%	23.6%	寝具類	2.1%	31.2%
冷蔵庫	6.4%	39.5%	家具類	1.1%	55.4%
電話 FAX	0.0%	21.7%	洗濯機	4.3%	29.3%
パソコン	0.0%	10.2%	エアコン	16.0%	54.8%

生活復興・再建支出状況

- 「床下浸水」では「25万円以下」の支出世帯が最多
- 「床上浸水」では「100～200万円未満」「200～500万円未満」の支出世帯が卓越
- 「床上浸水」のなかでは家屋再建等で「1,000万円以上」支出の世帯あり
- 水害対応の車両保険未加入世帯における自動車購入支出の世帯あり

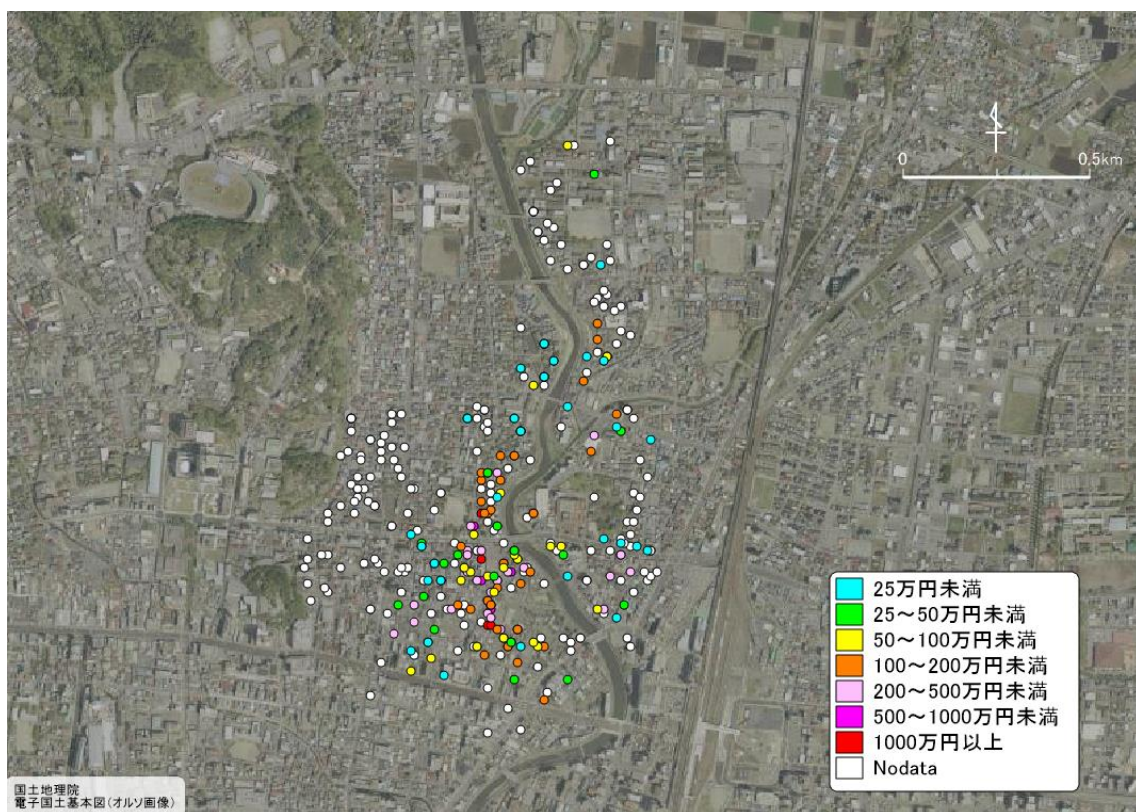
問 19 水害後の生活の復旧・復興にかかったおよその費用（保険等での補償金額を除き、自己負担で支払った金額）についておうかがいします（1万円単位でご記入ください）。※費用がかかっていない場合は空欄のまま問 20 へ

清掃等の費用	+	修繕等の費用	+	家財購入費用	=	合計
万円		万円		万円		万円

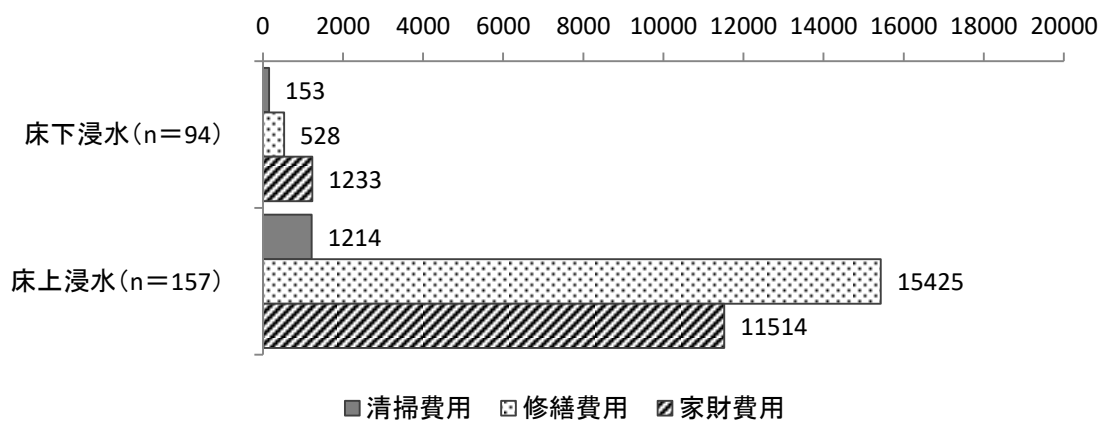


図IV-33 浸水被害状況別・生活再建支出費用

本調査で実施した、浸水被害別（床下浸水・床上浸水）の生活の復旧・復興にかかった費用では、床下浸水世帯で最も多かった支出額帯は「25万円以下」（23世帯）であった。また床上浸水世帯の支出額帯で最も多かったのは「100～200万円未満」（32世帯）、次いで「200～500万円未満」（29世帯）であり、家屋修理のほか、水害対応の車両保険未加入世帯での新規の自動車購入等がこれに充てられている。また、家屋の再建に係る支出として「1,000万円以上」が7世帯（床上浸水）みられた（図IV-33）。



図IV-34 生活再建支出費用地図



図IV-35 浸水被害状況別・支出項目別金額（累積）単位：万円

床上浸水被害が集中した田川右岸・県庁前通り以南の地域において生活再建に係る高支出世帯が集積していることが特徴となっている（図IV-31）。また、支出項目別に累積支出額をみると、床上浸水世帯において「修繕費用」が最も支出されている（図IV-32）。

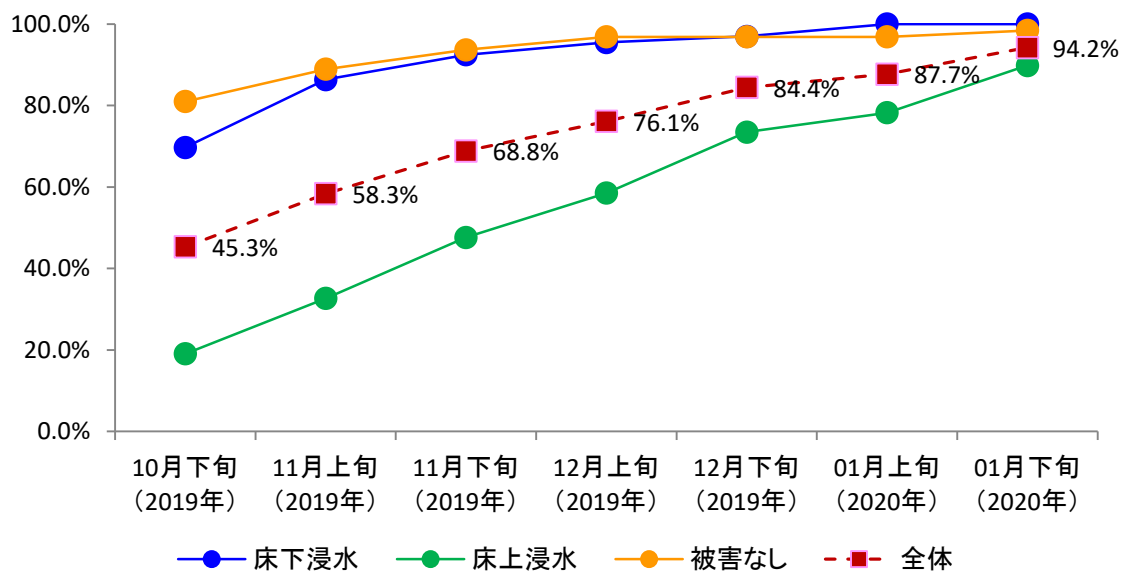
生活復興時期

- 生活復興時期＝被災者の主観的評価をもとに、立ち直りを実感した時期を計測
- 「床下浸水」より「床上浸水」世帯において復興感の醸成に長期間・長時間必要
- 「食事環境」「就寝環境」は比較的早期に回復
- 「経済環境」「地域活気」「心理安定」は復興感醸成に長期間・長時間必要
- 「床下浸水」では家財費用が卓越、「床上浸水」では修繕費用が卓越

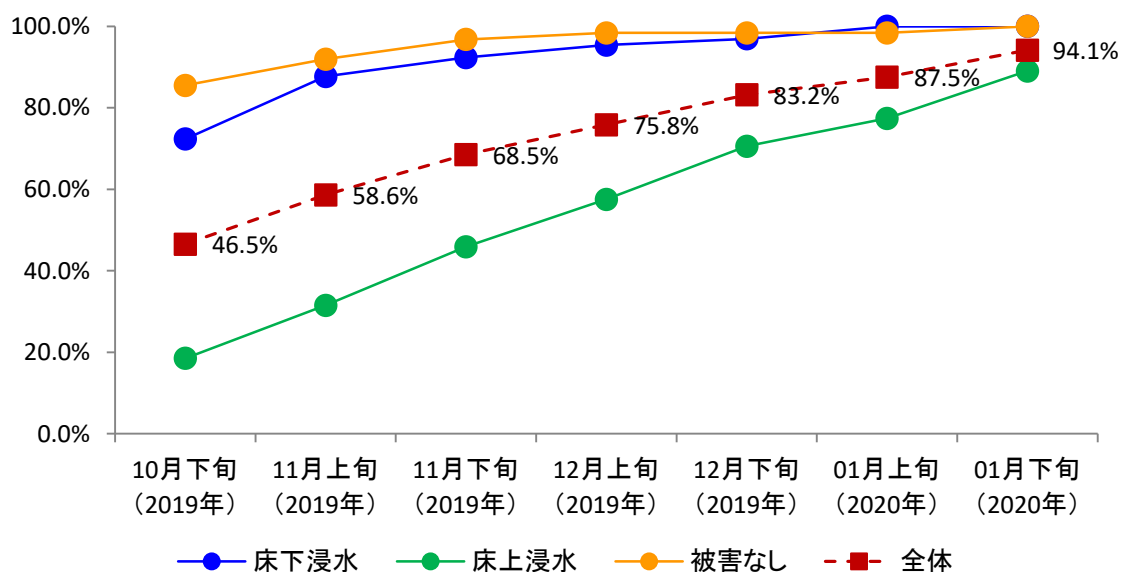
問 20 あなたは、以下の項目について、水害の発生前に比べて「ある程度の立ち直り・今後の見通しを感じた時期」はいつ頃でしたか？あてはまる（+）印の箇所にひとつずつ○印記入。

	2019 年					2020 年		
	10 月 下 旬	11 月 上 旬	11 月 下 旬	12 月 上 旬	12 月 下 旬	1 月 上 旬	1 月 下 旬	ま だ 未 決
落ち着いて食事ができる環境	+	+	+	+	+	+	+	+
落ち着いて就寝できる環境	+	+	+	+	+	+	+	+
経済的な見通し・立ち直り	+	+	+	+	+	+	+	+
地域の活気や暮らしむき	+	+	+	+	+	+	+	+
心の落ち着きが得られた時期	+	+	+	+	+	+	+	+

本調査で用いる生活復興感とは、行政の策定する復興計画による公共基盤整備型事業等の進捗状況から明示される「復興の達成率」に対し、被災状況や生活状況が異なる被災者自身もつ主観的評価を基に計測するものである。本調査では、生活復興感に関する設問の時間感覚や尺度のわかりやすさを考慮し、調査時点の生活全般に対して、食事や就寝、仕事の再開を含む経済環境や、心の落ち着き（心理安定）、地域の活気に対して「ある程度の立ち直り・今後の見通しを感じたとき」を時期で回答する手法を用いた。具体的な時期の設定方法は、1カ月を概ね2週間程度の「上旬」と「下旬」に分割し、「未決」を含む8尺度を設定した。

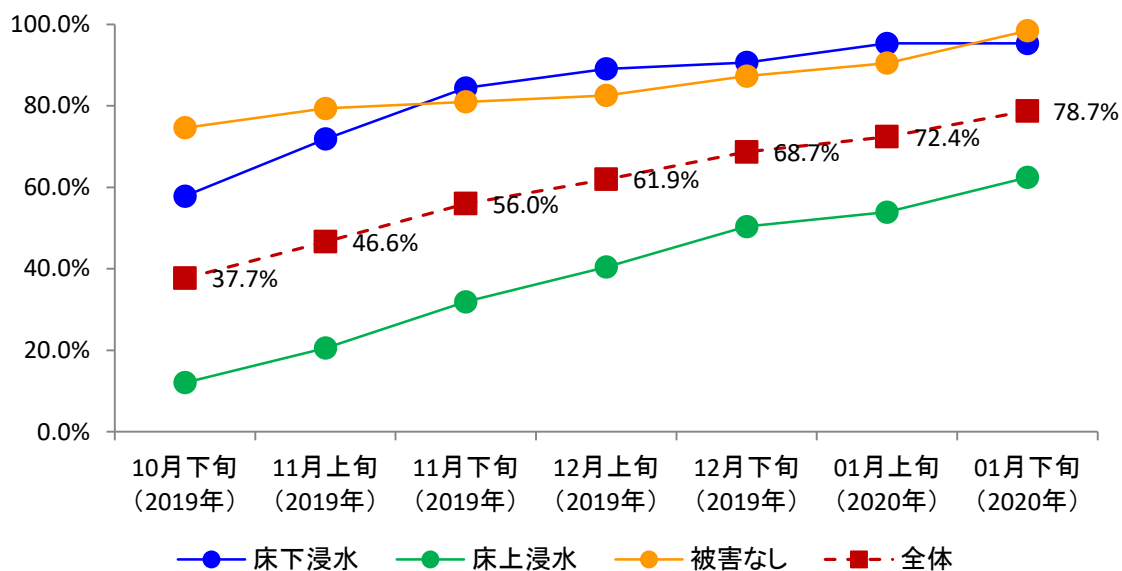


図IV-36 浸水被害状況別・食事環境に関する復興時期（分析単位：世帯）

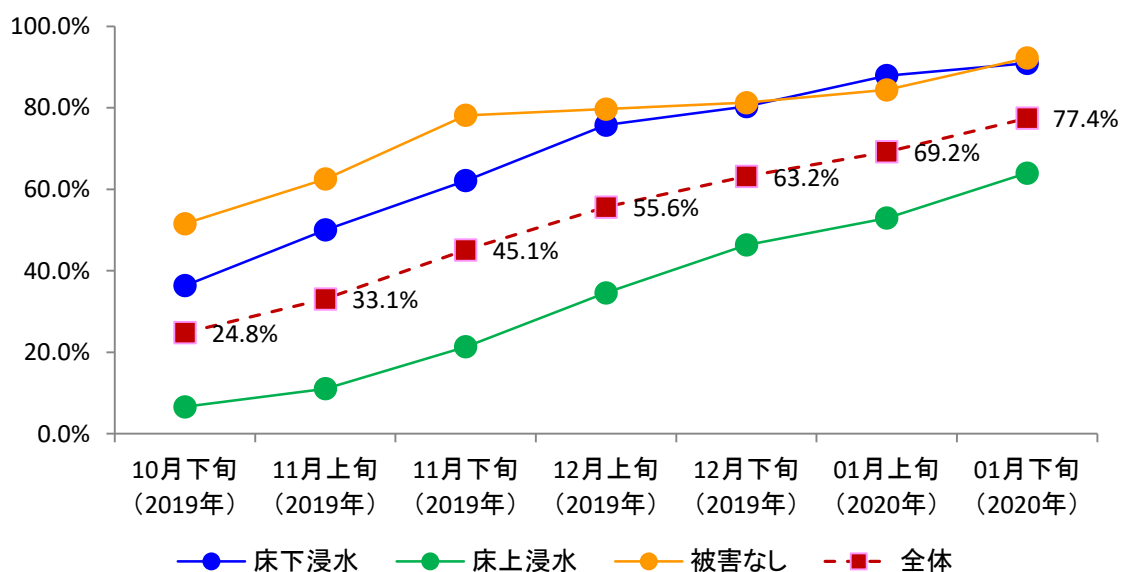


図IV-37 浸水被害状況別・就寝環境に関する復興時期（分析単位：世帯）

「食事環境」(図IV-36)、「就寝環境」(図IV-37)とも類似した復興(立ち直り)曲線となっており、比較的早期の立ち直りがみられた。本調査地域においては浸水による甚大な住宅被害が発生したが、避難所ではなく自宅で生活再建が図られ、発災から3.5カ月が経過した2020年1月段階での復興感の平均値は「食事環境」(94.2%)、「就寝環境」(94.1%)であった。

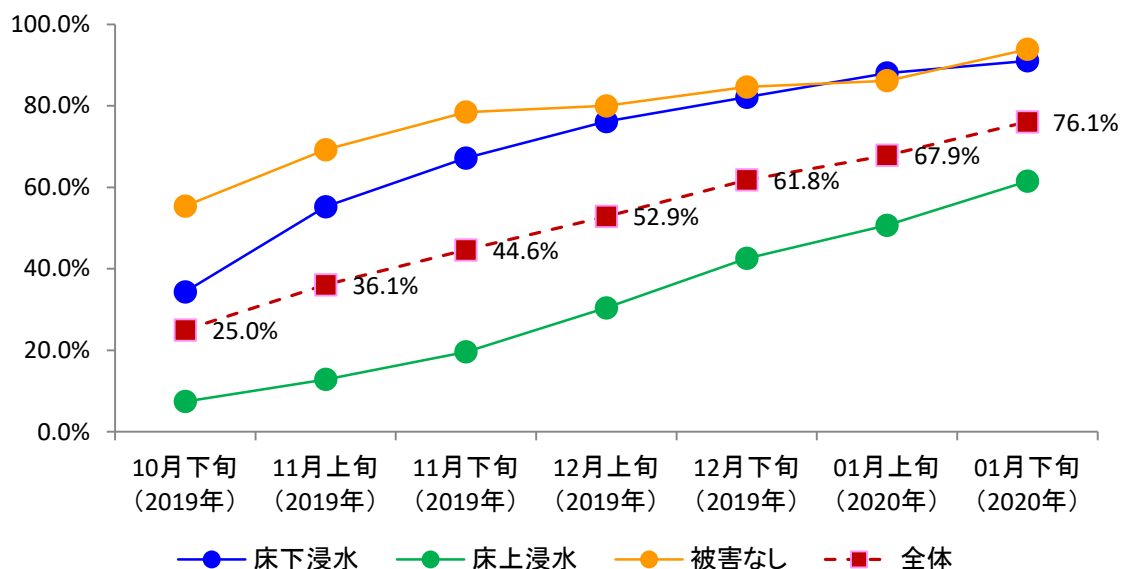


図IV-38 浸水被害状況別：経済環境に関する復興時期（分析単位：世帯）



図IV-39 浸水被害状況別・地域活気に関する復興時期（分析単位：世帯）

被災後の生活再建において生じた経済支出等に起因し、浸水被害程度の違いから「床上浸水」世帯の復興感の回復は遅く、2020年1月下旬段階の全体平均でも78.7%であった（図IV-38）。また、「地域の活気や暮らしむき（地域活気）」（図IV-39）の回復も遅く、水害が及ぼす影響の長期化が課題と示唆された。



図IV-40 浸水被害状況別・心理安定に関する復興時期 (分析単位：世帯)

表IV-14 生活復興に係る時期と復興感の割合

	復興感 50%を超えた時期 (全世帯平均)	2020年1月下旬の復興感 (全世帯平均)
食事環境	2019年11月上旬 (発災後1.0カ月)	94.2%
就寝環境	2019年11月上旬 (発災後1.0カ月)	94.1%
経済環境	2019年11月下旬 (発災後1.5カ月)	78.7%
地域活気	2019年12月上旬 (発災後2.0カ月)	77.4%
心理安定	2019年12月上旬 (発災後2.0カ月)	76.1%

災害が「心」に及ぼす影響に関する「心の落ち着きが得られた時期 (心理安定)」の回復傾向も「経済環境」「地域活気」と同様の傾向をもち、復興感の形成に長時間を要していることが示された (図IV-40)。

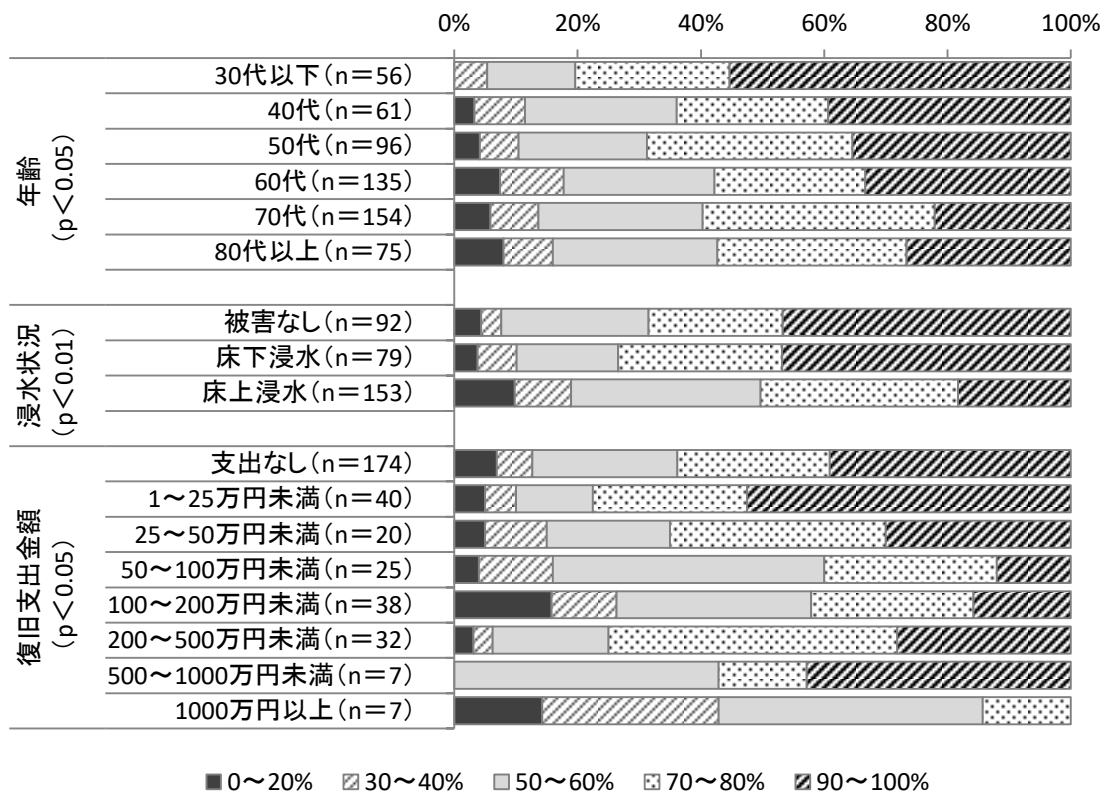
生活に係る各項目の平均復興感が世帯全体の半数 (50%) を超えた時期をみると、「食事環境」「就寝環境」は発災後 1.0 カ月にあたる 2019 年 11 月上旬に達成されているが、「経済環境」は 1.5 カ月後 (2019 年 11 月下旬) に、「地域活気」と「心理安定」は 2.0 か月後 (2019 年 12 月上旬) になって達成されている (表IV-14)。また、発災から 3.5 か月後にあたる 2020 年 1 月下旬の段階でも「経済環境」「地域活気」「心理安定」は 70%台にとどまるなど、被災後に復興感が得られるまで長期間を要していることが示された (表IV-14)。

主観的復興感

- 主観的復興感：「水害前を100%とした時の現在の割合（20%間隔・5尺度）」を取得
- 年齢別：若年層の復興感が高い反面，高齢者は低い割合にとどまっている
- 浸水状況別：「床下浸水」に比して「床上浸水」の復興感が低い
- 復興支出金額が多い世帯において低復興感

問 21 自分自身が感じる復興の状況について，あなたご自身は「水害前」を100%としたときに，「現在」どのくらいまで回復していると思いますか？

- | | | |
|-----------|------------|-----------|
| 1. 0～20% | 2. 30～40% | 3. 50～60% |
| 4. 70～80% | 5. 90～100% | |



図IV-41 年齢・浸水状況・復旧支出金額別の主観的復興感

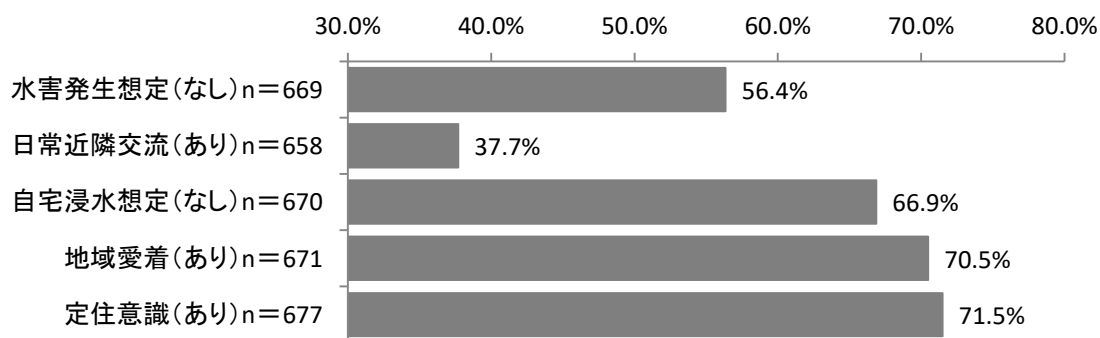
注：「年齢」＝個人単位，「浸水状況」・「復旧支出金額」＝世帯単位

住環境評価

- 水害発生想定（なし）の全体割合（56.4%）・全年齢層に共通して半数以上が同傾向
- 日常近隣交流（あり）の割合は、加齢・居住歴の長さに比例
- 自宅浸水想定（なし）の全体割合（66.9%）・全年齢層、居住歴に ZERO-RISK 想定多数
- 地域愛着（あり）の全体割合（70.5%）、居住歴の長さに比例
- 永住意識（あり）の全体割合（71.5%）

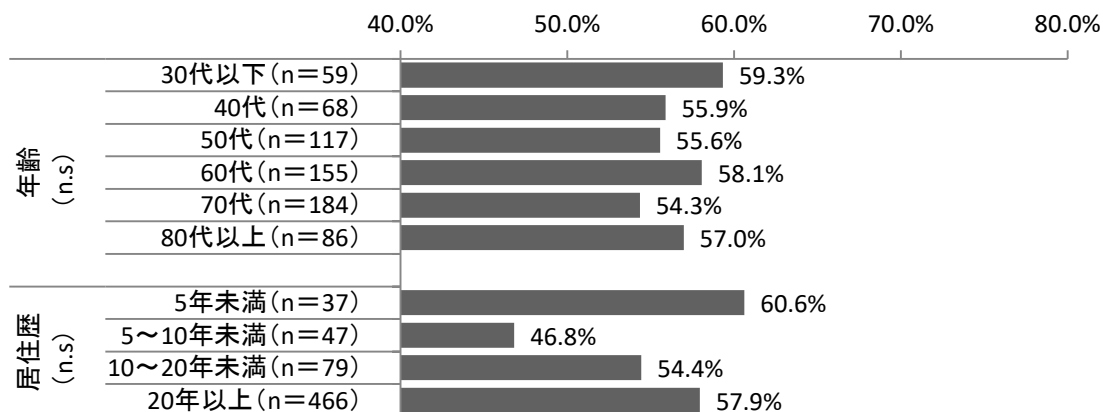
問 22 台風 19 号による被害を経験する以前に、あなたは田川の洪水に対する危険性や、平時からの備え、地域についてどのように感じていましたか？

	そう 思わない	あまり 思わない	ふつう	やや そう思う	そう 思う
水害は発生しないと思っていた	1	2	3	4	5
普段から近隣での交流がある	1	2	3	4	5
自宅は浸水しないと思っていた	1	2	3	4	5
住んでいる地域に愛着がある	1	2	3	4	5
今後も住み続けたいと思う	1	2	3	4	5

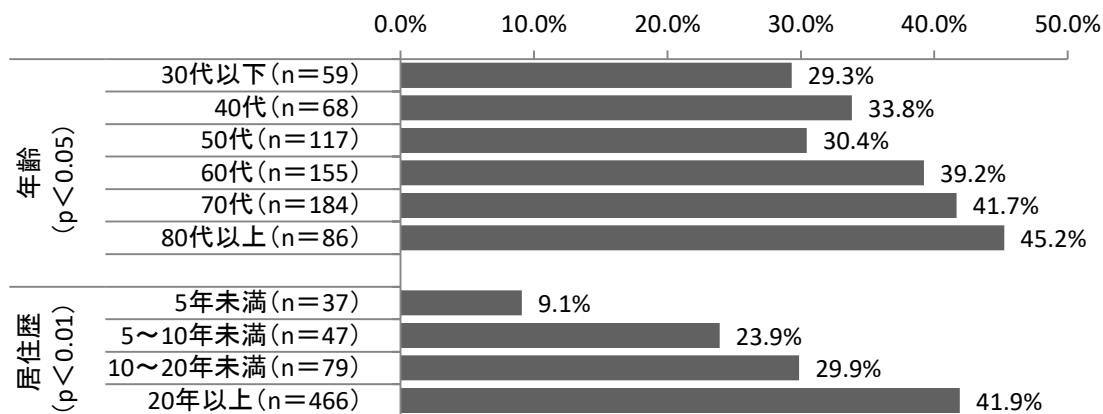


図IV-42 住環境項目における「ややそう思う」「そう思う」合算割合と傾向

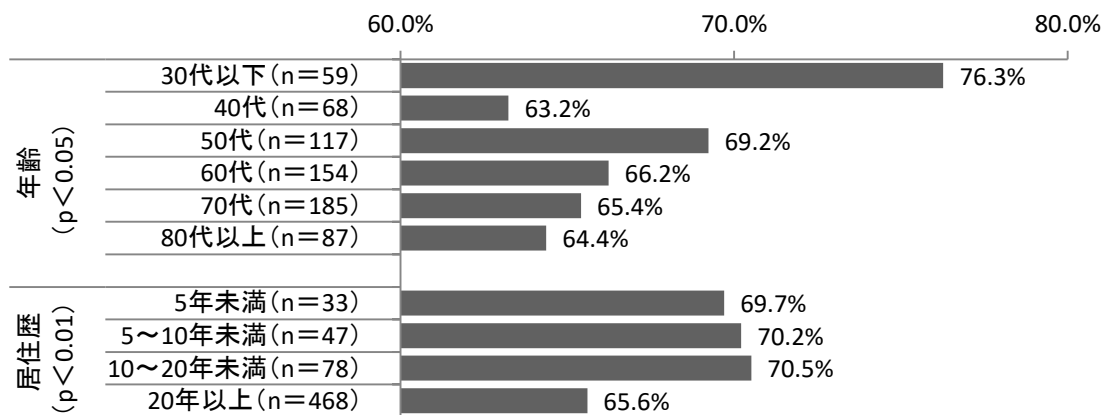
本地域における住環境調査において「水害の発生想定（なし）」および「自宅浸水想定（なし）」の割合はともに高く、台風第 19 号による浸水被害が居住者にとって「想定外」であったことが想定される。一方、地域への愛着や定住意識の割合が高い傾向がみられた。



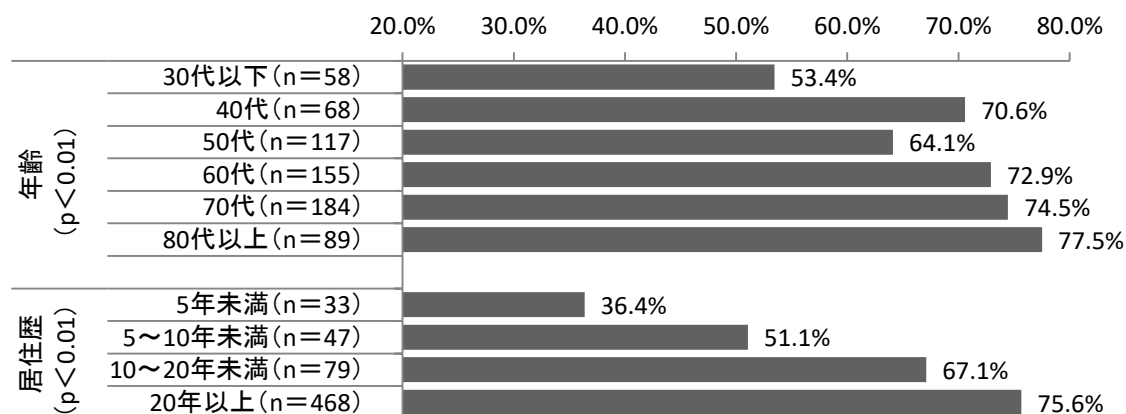
図IV-43 水害発災想定（なし）の「ややそう思う」・「そう思う」合算割合と傾向



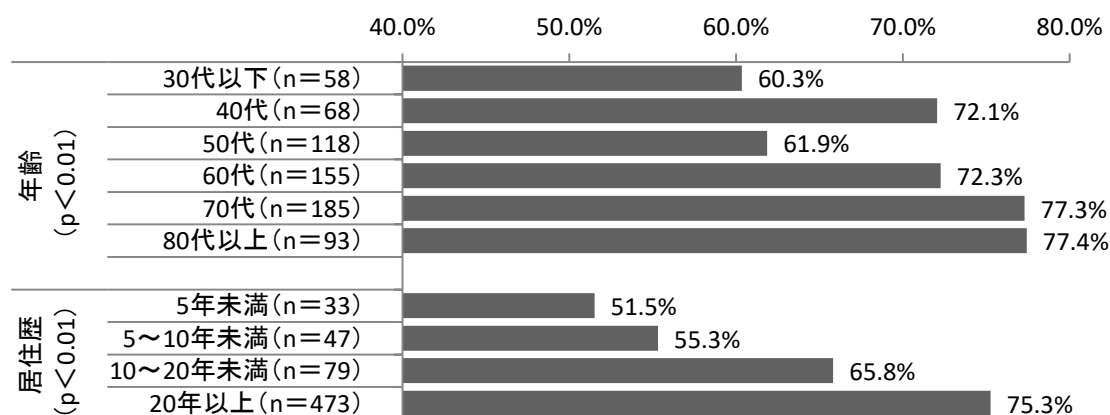
図IV-44 日常近隣交流（あり）の「ややそう思う」・「そう思う」合算割合と傾向



図IV-45 自宅浸水想定（なし）の「ややそう思う」・「そう思う」合算割合と傾向



図IV-46 地域愛着（あり）の「ややそう思う」・「そう思う」合算割合と傾向



図IV-47 永住意識（あり）の「ややそう思う」・「そう思う」合算割合と傾向

図IV-43 から図IV-47 に住環境調査項目別に「年齢」および「居住歴」とのクロス集計結果をもとに、回答の「ややそう思う」「そう思う」の合算値の割合を示す。水害発生想定（なし）では全年齢層において 50%以上の非発生想定がみられたほか、自宅浸水想定（なし）でも 60%以上に同様の傾向がみられるなど、ゼロリスク意識が高い地域であったことが示された。

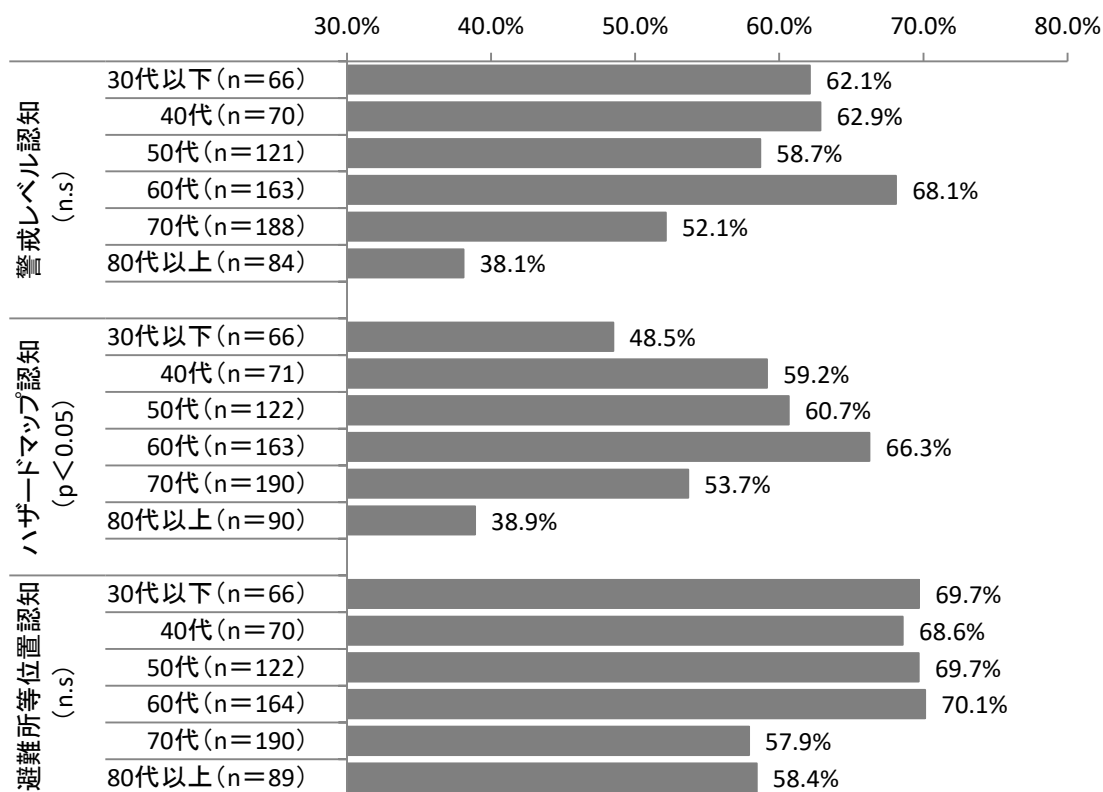
一方、「地域愛着（あり）」や「永住意識（あり）」は全年齢層とも比較的高い水準にあり、この傾向は、ともに居住歴の長さ按比例して増加している。しかし、「日常交流（あり）」の割合では、居住歴 20 年未満の居住者において 30%に満たない水準にあり、平時からの地域の連携に向けた仕組みづくりが要されるものと考えられる。

災害関連情報認知状況

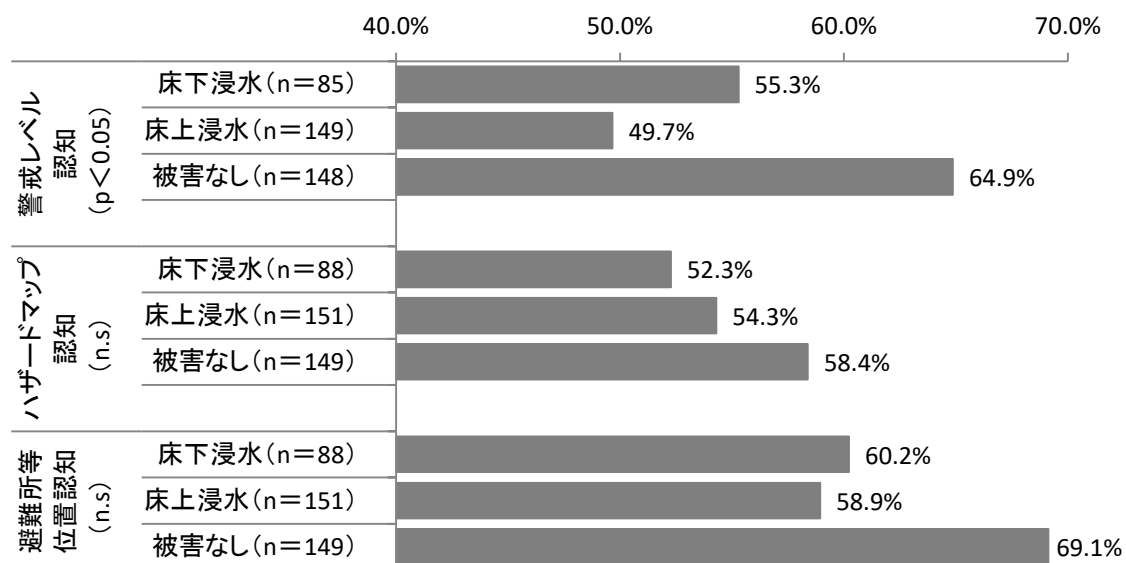
- 警戒レベル認知：「知っていた」（全体割合：57.4%）
- 警戒レベル認知：80代以上の認知割合（38.1%）
- 田川のハザードマップ認知：「知っていた」（全体割合：56.0%）
- 田川のハザードマップ認知：80代以上の認知割合（38.9%）
- 地域の「避難所」「避難場所」の位置認知：「知っていた」（全体割合：65.0%）

問 23 以下の項目について、あてはまる方に○印を記入してください。

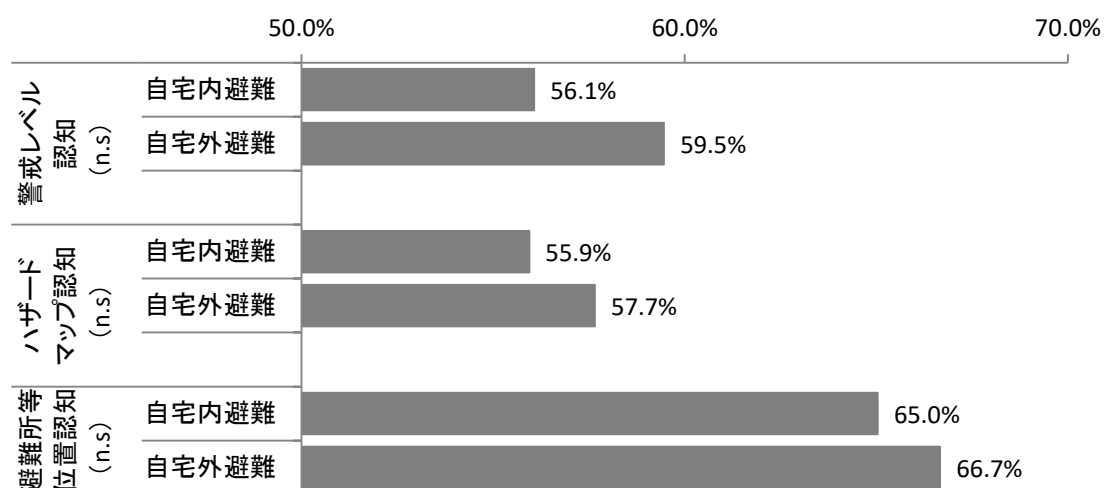
5段階の警戒レベル（例：レベル4）	1. 知らなかった	2. 知っていた
田川のハザードマップ	1. 知らなかった	2. 知っていた
地域の「避難所」「避難場所」の位置	1. 知らなかった	2. 知っていた



図IV-48 年齢別・災害関連情報に関する「知っていた（認知）」割合



図IV-49 浸水状況別・災害関連情報に関する「知っていた（認知）」割合



図IV-50 避難状況別・災害関連情報に関する「知っていた（認知）」割合

年齢別・浸水状況別・避難状況別での災害関連情報認知の傾向は、年齢別において高齢者の低認知が存在するほかは、他の属性間で顕著な認知の差異はみられず、全体で 50%～60%台での認知がみられた。これは、行政による住民説明会が継続的に開催されていたことのほか、自治会の自主防災会による防災訓練等を通して各種の情報が伝えられていたことが背景にあるものと考えられる。

避難行動意思

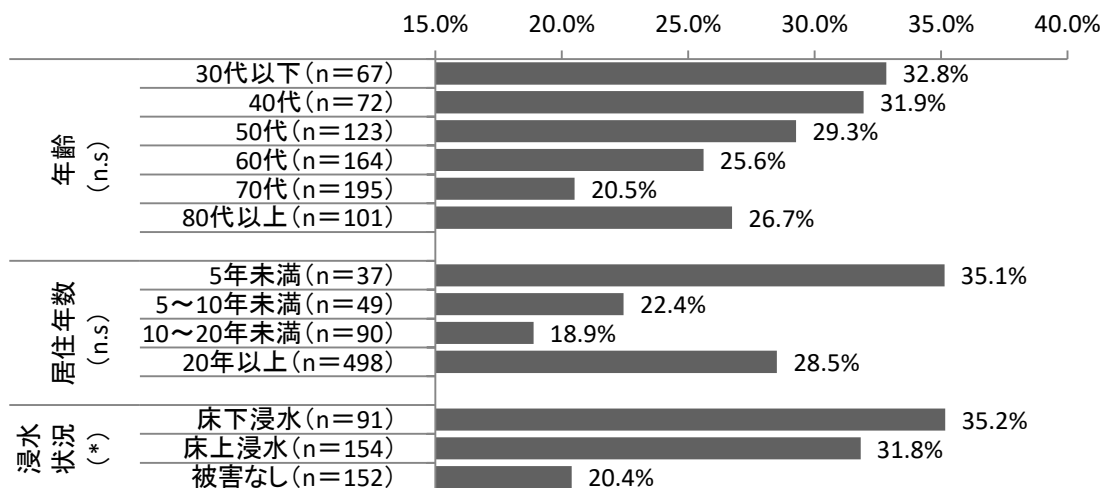
- 今後の避難行動意思「自宅内避難」(55.3%)
- 今後の避難行動意思「自宅外避難」(26.3%)
- 加齢に伴い避難行動意思「自宅外避難」は減少傾向
- 「床下浸水」世帯における今後の避難行動意思「自宅外避難」の割合(35.2%)
- 「床上浸水」世帯における今後の避難行動意思「自宅外避難」の割合(31.8%)

問24 今後、仮に今回の台風19号のような豪雨や台風等の襲来があったときに、あなたはどのように行動しますか？あてはまるものひとつに○印を記入してください。

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. 特に行動をしない | 2. 自宅の2階などに避難する |
| 3. 自宅以外の避難所等へ避難する | 4. わからない |

表IV-15 今後における避難行動意思の人数と割合

	人数	割合
行動をしない	39	5.4%
自宅内で避難する	399	55.3%
自宅外へ避難する	190	26.3%
わからない	94	13.0%



図IV-51 属性別・自宅外避難意向の割合

注：年齢・居住年数は個人単位，浸水状況は世帯単位

健康状況

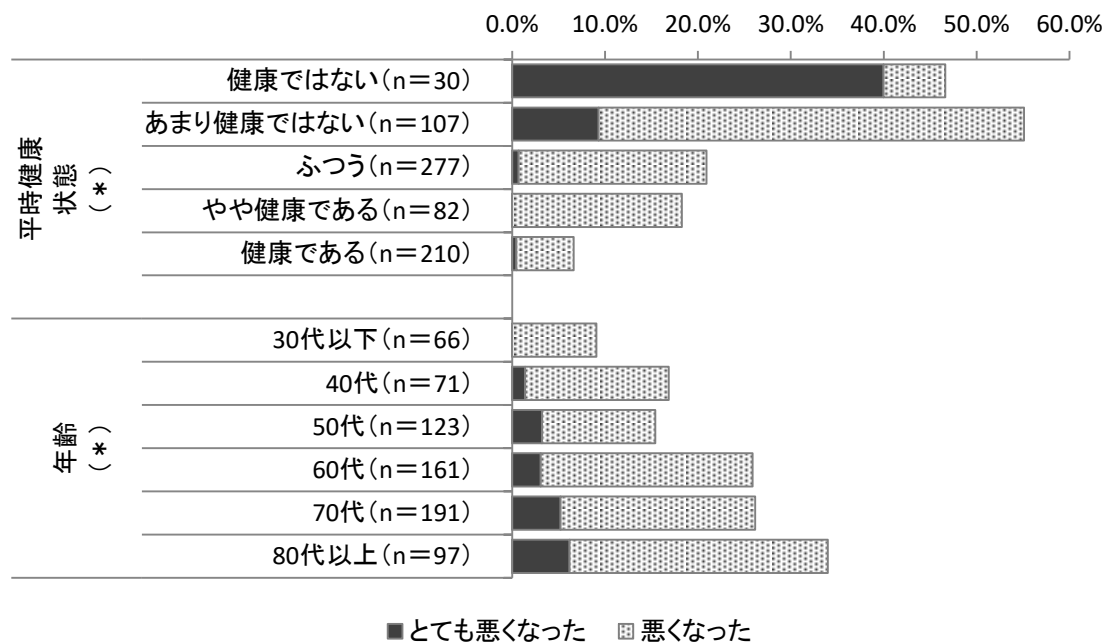
- 平時の健康状態（発災前）が「ふつう」以上においても健康悪化が微増
- 加齢に伴う健康悪化割合の増加
- 災害後・60代以上の健康症状「不眠」「腰痛・疼痛」の割合増加
- 災害後・60代以上において通院ありの割合増加

問 25 あなたご自身の普段の健康状態にあてはまるものに○印を記入してください。

1. 健康ではない 2. あまり健康ではない 3. ふつう
4. やや健康である 5. 健康である

問 26 水害後のあなたの健康状態の変化についてあてはまるものに○印を記入してください。

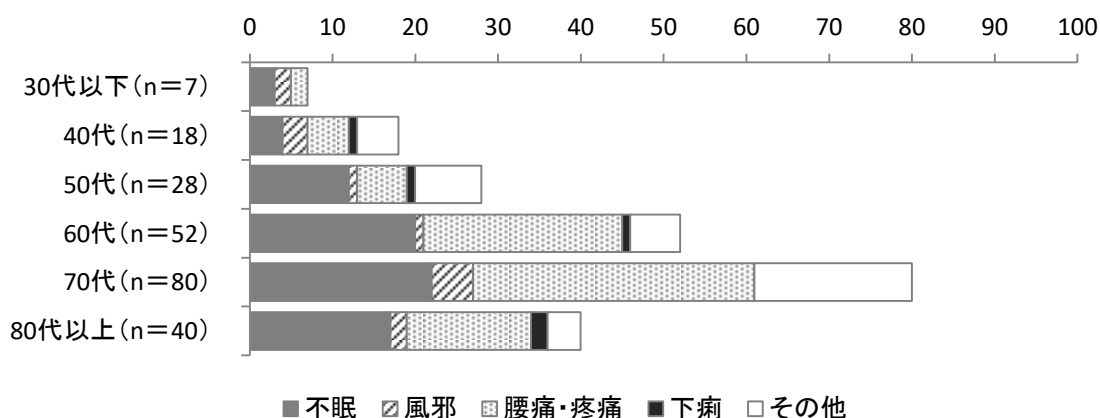
1. とても悪くなった 2. やや悪くなった 3. 変わらない



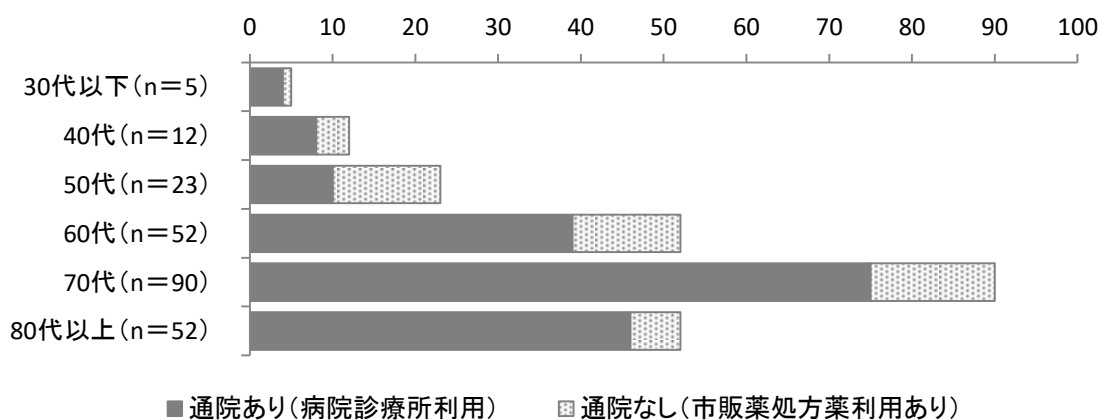
図IV-52 平時の健康感と年齢属性別の災害後の主観的健康感の変化

問27 台風19号による災害後の、あなた自身の健康状態のうち、下記の病状はありましたか？また通院等をしましたか？最も当てはまるものに、ひとつずつ回答して下さい。

症状	1. なし	2. 不眠	3. 風邪（発熱・頭痛）
	4. 腰痛・疼痛	5. 下痢症状	6. その他（ ）
通院 投薬等	1. 通院あり：病院・診療所等の施設を利用した		
	2. 通院なし：市販薬や処方薬等を服用した		
	3. 通院なし：市販薬や処方薬等を服用しなかった		



図IV-53 年齢別・災害後の発生病状



図IV-54 年齢別・災害後の通院・服薬状況

避難に関する感想・要望・意見

- 避難所までの遠さの指摘多数
- 自動車での避難や、自動車自体の避難場所の検討要望
- 域内の小学校に対する避難所利用の検討要望
- サイレン等の設置により河川の危険性を通知する取り組み要望
- 遠方への避難に対する疑問の提示・自宅内での避難を含めた方針の検討

- 歩くことが不便な人は、避難の足がないです。
- 老体のため、情報（ラジオ）を聴きながら雨戸を厳重にし、二階で静かにしている。
- 避難所が全く分からなかった。緊急の際には、民間施設（例えば、南大門など）と市が契約を結ぶことはできないか？
- まだ、田川の浚渫があまり進んでいないので、今年も今の状態だと去年以上に早く氾濫する恐れがあるので、早めに川底の整備をお願いします。
- 浸水が始まって床上になっているときに消防団の声でしたが、水が多くて停電になったので避難できなかった。
- 台風前に自分の避難場所がどこなのか気になっていた。パソコンもスマホも家がないので市役所に行き地図を手に入れようと思っていた矢先に台風に遭った。
- 自宅から避難所までが遠い
- 避難の放送は聞こえたが、避難場所が分からなかった。
- 今回の台風では実際に避難することがどれだけ困難かを実感しました。個人で対策をとっていくしかないのかもしれませんが、これからはもっと災害を意識して生活したいと思います。
- 防災メールにより早めに自動車での避難できた。通って大丈夫な道の知識がなかったのが不安だった。
- 昭和小学校までは遠すぎる。今回、送っていただいたので助かった。
- 土嚢配布等の事前の伝達があればよかったと思う。
- 避難ではなく、今後、洪水にならないような対策について検討、実施を望みます。安心して暮らせるまちづくりの実行をしてほしい。
- 家の前の道路が川のようになって、外に出ることができなかったのも、家にいるしかないと思った。
- 親しくしていた友人が避難場所を教えてくれた。
- 避難所に避難情報が確認できるテレビ等があったほうがよい。
- 消防団とスマートフォンから情報を得た。二階にいれば安心と判断し、避難所にいかなかった。

- 避難所が遠すぎる。避難指示は明確に具体的な内容で伝えてほしい。
- 河川が氾濫しないよう整備していただくことが一番の願いです。
- 避難方法が伝わらなかった。想定外でした。
- ペットがいるので避難所には行けないとおもいますので、その点が不安に感じています。
- 安全と思われる避難所へ早めに避難したい。
- 避難所ではトイレ、洗面所なども混乱なくよかった。高齢者で床に寝られない人のために段ボールベッドなどが備えてあるとよいと思う。
- 県庁を避難場所にしてほしい。車の避難場所を前もって確保し明示してほしい。
- 避難のアナウンスをしてほしい。
- 自宅から陽北中学校の避難所までは夜間に雨が降る中で徒歩での移動は無理だと思う。
- 高齢なので、自宅の二階が一番安全だと思う。
- 避難情報はあったが、今動いても大丈夫かどうかの情報も欲しい。
- 家の中に浸水してきたので 119 番に電話をしたが二階に避難をしてくださいとの指示だった。
- 避難場所として水害の場合も東小学校が利用でいたらよいと思う。体育館が無理な場合は校舎の二階などを利用する。
- 親類宅に避難をする。
- 地域の避難場所が田川と御用川に挟まれており、今回よりも大規模な反乱がおきた場合の避難方法を考えなければいけないと思う。
- 昼間の早い時間帯からの案内が必要。自動車でのアナウンス等で避難場所の案内が必要だと思う。
- 自宅から避難所までが遠い。
- 千波町には清巖寺の北側に小さな川があり、通常の雨でも浸水することがその三年間で数回ありました。
- 水だけでなく、泥や砂の堆積量に驚いた。東小学校への避難が不可能なことがとても残念。
- 水害の破壊力に驚いた。三階建ての住宅も多いので避難は不要だと思う。
- 高齢者避難お手助けなどをどうしたらよいのかを自治体を含めて話し合いや助言が欲しい。
- 避難場所になっているところも浸水の可能性があるところのような気がします。もっと場所を見直すべき。
- 避難場所が分からなかった。
- 宇都宮商業高校は避難所にならず、どこへ避難したらよいのかわからない。全員避難の指示が出たときには、自宅前の道路は水が流れていたため自宅にとどまった。
- 人生で初めての経験でした。早めに避難することに決めています。

- 避難所が明確でなかった。
- サイレンなどで危険を知らせる放送があるとよいと思う。
- 避難場所が水に阻まれて避難することができない。避難所の見直しが必要です。
- 雨の音で消防車の情報が全く聞こえなかった。学校よりも自宅にいる方がよいと思い避難をしなかった。
- 避難情報が少なすぎる。消防車両による一回のみ。避難場所（陽北中学校）には自家用車による避難は可能なのか？
- 豪雨の時に車いすで移動できないため、義母を二階に避難させた。
- 県庁者の西にある昭和小学校まではいけない。あまりにも遠い。高齢者にはとても無理です。
- **FKD** の駐車場に自家用車を避難させていました。今後このような災害時には **FKD** 等の大駐車場を使用できるとよいと思う。
- 自治会の機能強化を図ることが必要だと思う。
- 炊き出しは大変助かりました。
- 自動車での避難をしたかったがどこへ行けばいいのかがわかりませんでした。緊急時には **FKD** なども使えるようにしてほしい。
- 避難場所が遠すぎる。
- 昭和小学校に避難をしたが、エアマットの空気ポンプが最初のうちはひとつしかなく冷たい床でつらかった。いくつかポンプがあれば協力できると思う。
- 避難場所の昭和小学校は遠くて行けない。
- 車のない高齢者は遠くの避難所に避難することができない。川の中の遊歩道は撤去してほしい。
- 自分の家の周囲は大きな被害がないと楽観視していたが今回の災害は本当に驚いた。
- 田川に昔のようにコンクリートの堤防があったら被災しなかったと思います。遊歩道は必要ないと思います。河川を狭くする花壇も不要。
- 河川の状況がリアルタイムでみられるホームページがまったくつながらず、自分で見に行くしかなかった。情報はテレビが頼りで他県の友人から状況を教えてもらった。
- 東地域コミュニティセンターは今回使用できない状況でした。
- 避難場所が遠い。
- 避難のメールは受け取っているが、具体的にわかりやすく場所等を知らせてくれるとよいと思う。自治体からの統一した行動指針を望みます。避難してくださいの繰り返しは不安を感じるだけです。
- 過去の水没範囲とほぼ同じエリアが災害に遭っている。
- 高齢のため、電子メールが使えないので必要な情報は親族からの電話連絡です。
- 親類のところに避難をしていましたが、却ってきてびっくり。家の中がメチャクチャ状態。その後、私と母が骨折をしてしまい大変な思いをした。

- 避難場所の陽北中学校までは遠いため、自宅の二階に避難する。
- すべてが初めてのことで情報がうまく伝わらなかった。今回は自宅の二階に避難したが、今後は余裕をもって安全な所へ移動避難したい。
- 避難場所は知っているが遠く、移動手段が徒歩のため今後は近くのホテルに行こうと思っている。
- 災害種別ごとに、避難情報、避難場所へのルートなどがまとまっている資料があると便利
- パソコンで田川の水位を見ていたが、溢れるとは思わなかった。
- 避難所でのエアマットに空気を入れるのに苦勞をした。
- 現在指定されている昭和小学校の避難所へはとても高齢者を連れていけない。
- 災害が発生しているときの情報があまり得られなかった。
- 車の避難場所を確保してほしい。
- 車の避難場所を確保してほしい。暗くなってからの徒歩での避難は大雨の中では現実的に難しい。
- 避難情報が少なすぎる。
- 千波町から昭和小学校までの避難は遠いと思う。
- 避難場所がもう少し増えるとよいと思う。
- 地域のハザードマップを活用して、適切な場所へ避難したい。
- 避難するタイミングを考える間もなく道路が冠水してしまいました。
- 避難場所を変更しもう少し安全な高い位置にしてほしい。
- 普段から避難について家族での話し合っておくことや考え方の共有が必要だと思った。
- 河川や水路が交錯している地域での避難は、土壇場で物理的にリスクがあり、自宅の二階の方が安全、安心である。
- 避難は自宅の2階でよいが、自動車の移動避難は必要。適切な車の避難場所を明示してほしい。
- 避難場所がよくわからない。ハザードマップが見つらくわかりにくい。
- テレビで同じ映像を何度も流している間に田川が浸水してリアルタイムで情報が得られない。
- もっと早い段階で避難勧告が出ていれば自動車が浸水被害を受けなかったのではないかな。
- 避難所まで遠くて行けない。
- どの避難情報が正しく最新なのかが分からなかった。雨の音が大きく消防のアナウンスが聞こえなかった。
- 車で昭和小学校へ向かった。八幡神社、蒲生神社前の駐車場に約30分間車の中で避難をした。
- 避難所の昭和小学校のトイレの汚さにはびっくりした。今時こんなトイレを使ってい

る小学生がかわいそう。

- 避難所までに移動手段（徒歩か車）に迷ってしまい結局二階に避難することになった。
- 今までにない自然の恐ろしさを体験したので防災グッズの確認をした。
- 早めの避難行動を起こし安全な場所に移動することが一番重要だと感じた。
- 消防のゴムボートで救出を頂いたが、二階に避難をしても済んだのではと反省をしている。自分の判断ミスにより大変なご苦労をさせてしまい反省している。
- リアルタイム雨量河川水位情報のサイトで田川の水位を確認しようと思ったがつながらなかった。
- 近所に人たちにお世話になりました。
- 近隣の人たちに協力を頂きました。
- 東小学校を避難場所にしてほしい。
- 自宅は三階なので避難所まではいかなくてもよいと思う。
- 消防から避難を勧められたが、何をもっていくのかを考えてしまった。避難をするということは家を捨てるということまで考えなくてはならないのか？冷静になってから避難の重みを考えさせられた。
- 宇都宮駅に近い自宅からは、昭和小学校ではなく、駅東方面への避難が安全であり今後は柔軟に考えたい。
- 避難場所を事前に周知してほしい。
- 避難場所が遠い
- 田川が溢れないようにしてほしい
- 県庁を避難場所として開放してほしい。
- 雨の中を徒歩で避難するのは危険だと感じた。避難場所にひとが溢れ入れてもらえなかった人がいる。
- 道路の排水設備の状況を検討してほしい。
- 御用川から突然自宅付近に浸水が始まった。
- 個人が災害に対して危機感をもう少し持ち、他人に頼らなくても危険性を把握しているべきだと思った。
- 避難をすること自体が怖かった。
- 車をどこに移動させるか迷った。土地が高くなっているところを探すのが大変だった。
- わかりやすくアナウンスをしてほしい。
- 水が目の前に来てから車を移動した。時間に余裕がなかった。
- 避難所の備品が不足していた。
- 避難所内に動物を入れている人がいた。避難所のエアマット、毛布が不足していた。
- 避難所でのプライベートな空間の設置などが重視されるとよいと思う。
- 避難所の錦コミュニティセンターは川と川の間にあるのでこの場所は大丈夫でしょうか？

- レベル4が発令された時点ですでに川があふれそうだった。もっと早く避難お指示を出したほうが良いと思う。
- 陽北中学校に避難をしたが、毛布も何もなく、ほとんどの人がパイプ椅子に座っていた。
- 戸締りをして迅速に避難所に行くことが大切だと感じた。
- 昭和小学校に避難できてよかった。エアマットの空気入れを皆で協力した。高校生は素晴らしかった。早めに避難してよかった。
- 避難所でもみんなで協力することが大切だと感じた。
- エアマットを膨らませるポンプなど、避難所の設備をきちんと整備してほしい。
- 車の避難移動場所を検討してほしい。
- 災害対応に対しての市の対応が不足していると思う。
- 個別の連絡訪問をしてほしい。
- 避難時間や場所を早めに教えてほしい。
- 車を安全なところまで移動したい。
- まさか自宅が床上浸水するとは思っておらず油断していた。
- 車を避難させられる立体駐車場の情報が欲しかった。

行政やボランティア支援団体等に関する感想・要望・意見

- ボランティアによる炊き出し・清掃支援等の謝意多数
- 行政での補償等の手続きの煩雑さ等に対する不満→ワンストップ型窓口の検討
- 支援の偏りに対する不満
- 報道の格差・行政からの情報発信不足等の指摘
- 田川の安全性を考慮した整備要望

- 今回、床下の泥の撤去のボランティアの方に大変お世話になりました。郵便受けに支援にチラシが入っていたので情報を知りお願いできた。ありがとうございました。
- 床上浸水、床下浸水に関わらず一律の現金支援が必要
- 炊き出しに大変感謝しています。各種免除や義援金もありがたいです。ただ、被災中の書類手続きは大変でしたし、見舞金支給口座を電話で聞くのは教えるのに抵抗がありました。
- 避難していても家の状況が分かるよういろいろ教えて頂きたかった。
- 宇都宮市全域での被害ではなく、局地的な被災だったのでもう少しきめ細かい対応ができたと思う。行政より民間の方が、対応が早かった。
- ボランティアの人には感謝しています。田川は昔のようにコンクリートの柵に戻してほしいです。景観よりもまずは安全安心です。ぜひ早急に検討してほしい。
- 現在よりも少しでも安心して環境づくりを考えて実行してほしい。田川の洪水の危険性を少しでも排除する事業の実施を望みます。
- 個人宅でないと支援を受けられず、同じ場所にながら、会社としては全く支援を受けられなかった。
- ボランティアの人たちは一生懸命働いてくれて本当に感謝をしている。
- 市役所の方や自治会の方が様々な情報を知らせに何回も回ってくださりとても心強くありがたかった。感謝しています。
- 田川の河川歩道が砂利や砂で埋まっている箇所があり整備してもらいたい。
- 介護の主人を抱え、今後避難することが起きた場合とても不安になります。
- 水害のごみ処分に近所の人のおかげがありがたかった。
- 何回も市役所に行き、手続きが大変でした。
- 被災していない地域と思われていたのか、支援の案内が全くなかった。どのように立て直してよいかわからず大変困った。
- 自宅は玄関ポーチまでの浸水で済み、清掃も家族が中心となって短時間でできたが、近隣には床上浸水の家も多く特に高齢者世帯などは気の毒だと思った。
- 炊き出しや片付け作業などを熱心にしていただき感謝しています。

- 生徒を連れてボランティアに参加した。
- 近所の助け合いが早かった。その後のボランティアの活躍には感謝しています。
- ボランティアの方が畳やタンス、テレビ、冷蔵庫などを運んでくださりとても助かりました。
- 宇都宮市は災害も少なく安心して暮らしていましたが、この経験をしっかり受け止めて暮らしていきたい。
- うつのみや暮らし復興支援センターのおかげで家の周囲、床の清掃、床下の泥の除去、消毒までやっていただき感謝しています。
- 被災後のボランティアには大変お世話になりました。
- 経済的にも精神的にも知人や親類に頼ることができない。
- 各市町村によって支援金に違いがあることが分かった。ボランティア活動には感謝しています。
- 同じ県内でも市町村によって支援に違いがあるのは仕方がないのか？インターネットの案内等を見ると、栃木市は家財の購入の20%の還元があり、宇都宮市はなかった。
- ボランティアの支援を受けて本当にありがたかったです。
- ボランティアの方々の炊き出し本当に助かりました。行政の支援がもう少しあると助かります。
- ボランティアに感謝しています。
- 栃木 SC のスタッフの方がガタボランティアとして畳などを運んでもらい大変助かりました。
- ボランティアの人たちの手伝い先を決めるシステムを普段から作っておくとよいと思う。
- ボランティアの人が良く働いてくださいました。
- ボランティアの人が良くやってくれた。
- 補助金が全く使えない。
- 床上浸水の方だけに多くの支援があり、床下浸水は問題視してもらえないように感じた。
- ボランティアの皆様の働きがありがたかった。
- ボランティアの方が床下の消毒をしてくださいました。感謝しています。
- 早い段階からボランティアが床下の泥をとって来て本当にありがたかった。業者に頼むと時間も料金も日時もわからないといわれた。
- 災害後の跡片付けでボランティアの方には大変お世話になり助かりました。
- ボランティアの方々の支援には心から感謝しております。ありがとうございました。
- 夕食の炊き出しはとてもありがたかった
- ボランティアの皆様には本当にお世話になりました。炊き出しもとても感謝しています。

- ボランティアの炊き出しがとてもありがたかったです。
- 被災者支援の情報をもう少し早く行政から知らせてほしかった。
- 炊き出しはとてもありがたいですが、長時間並ぶのは大変です。
- ボランティアが少なくて困った。
- 市の対応が遅い。
- ボランティアの人たちがチームワークよく片付けをしてくれてとても助かりました。
- 専門知識を持った人による相談ができる窓口が必要だと思う。
- 大きな食器棚を運んでいただき助かりました。
- 後片付けが忙しいときに手続き等が多く、とても不安だった。
- 住民に対する通報がもっとしっかり伝わるようにしてほしい。
- 行政の今後のことや、現在の状況などを互いに話し合う機会を作ってほしい。
- 田川が越水しない環境づくりをしてほしい。
- 行政の支援情報が不明確で対応してくれた人によって情報が変わり、たらいまわしにされた。ボランティアにひとが親身になってくれてありがたかった。
- 田川の治水工事についてどのようになっているのかの説明が欲しい。
- ボランティアには親切丁寧にしてもらい感謝しています。
- ボランティアについてはただただ感謝をしています。
- ボランティアには大変感謝しています。
- 避難所での対応はみな優しくていねいにやっていただき助かりました。
- ボランティアをもっと入れてほしい。
- ボランティアの支援は非常に助かった。
- ボランティアの支援はとても感謝しています。
- 行政の災害支援活動には限界があると思う。地域内のボランティアや NPO 等が積極的に支援してくれたことはとても感謝している。
- 支援体制はできていると思うが、まずは自助で。
- 避難場所を考え直してほしい。
- 河川が溢れる前の避難アナウンスのほかに、それを知らせるサイレンを鳴らしてほしい。
- 台風のあとジャパンカップが行われ、交通渋滞のせいで災害廃棄物を処理場にもっていくことができなかつた。また選手や客は近くで被災があったことを全く知らない様子だった。
- 翌週大通りでジャパンカップが開催されたが、その時に寄付金を集める算段があってもよかつたのでは。観客の多くが、災害があつたことを知らなかつたと思う。
- 昭和小学校の体育館のトイレの汚さに絶句した。
- ボランティアへの参加方法が分からなかつた。
- 組内にはお年寄りや小さな子供もいるので、近所同士の声がけなどができたらいいか

など感じた。普段からの付き合いは大事だと感じた。

- 避難が遅くなり、消防署に連絡し救命ボートで助けて頂き南大門に避難をすることができた。
- ボランティアによる炊き出しを実施していただいたことにとっても感謝をしています。
- とてもありがたく感謝をしています。
- 感謝しております。
- 炊き出しなどが大変助かった。車の避難場所と指導，誘導が欲しかった。
- ボランティアの皆様には本当に助けられました。
- 道路に流れ着いたごみ等を片付けて頂いた。とてもありがたかったです。
- 発災翌日から宇都宮市の資産税課や保健福祉課などの訪問があり対応の早さに驚いた。一方，地域によって行政支援のスピードが違う印象もある。
- ボランティアにはとてもお世話になり助かりました。
- この地域の避難場所が水害と地震で違いがあることを周知が不十分であると思う。明確に告知してほしい。
- ボランティアの睦会が来てくれて大変ありがたく思いました。
- ゴミの片づけは大変お世話になりありがとうございました。公園に出せて助かりました。何度か炊き出しもいただきました。感謝申し上げます。
- たくさんの人が来てくれて色々助けてもらいました。
- 私有地の側溝の泥の清掃対応が個人になってしまった。復興支援センターに問い合わせをしてすぐに対応をしてくださいました。
- 田川の西側の川の中に公園を作っていたために水の流れが急に変化して水があふれる状態になっていた。
- 感じよく声がけをしてくれた。ホッとしました。
- 土嚢袋の配布が遅かった。もう少し早くしてほしい。
- 一番先に欲しかった汚泥を入れる袋はほとんど片付いたころの一週間後に配られたので遅いと思う。
- ボランティアの方が床下に潜っていただききれいにしていただき，ありがとうございました。
- 自治会や市が被災状況をきちんと把握したうえでボランティアを手配したほうがよかったと思う。
- ボランティアが床下の泥や濡れた断熱材を除去してくれて本当に感謝しています。
- お年寄りの多い地区なので近所の若い方やボランティアの手伝いがとてもありがたかった。
- ボランティアに感謝しています。
- ボランティアの働きには大変感心させられています。泥出しや炊き出しなど頭が下がる思いでした。

- ボランティアへの参加方法が分からない。
- 被災する前に「被災した時のボランティアの要請の有無」や「被災者へのボランティア参加の有無」を回覧等で事前準備をしていくことが必要だと思う。
- ボランティアが来ているのかの情報が入ってきませんでした。市役所等も混乱していることが多かった。
- 行政がどのように動いているのか、どのような支援が受けられるのかが広く周知されるべき。
- NPO などのサポートは早かったが、社協や市役所の対応は遅かった。地域の人は高齢の人が多く体調を崩している人もいた。
- ボランティアの窓口が分からない。電話番号などが分かるとよいと思う。
- 支援を受ける際の必要書類や条件を見ただけで申請をあきらめてしまったものもある。複雑な手続きでは高齢者にとってハードルが高いと思う。
- 被災後に困ったのは自動車が浸水して使えなくなったことです。移動手段を支援してほしい。
- ボランティアに感謝しています。被災家具類を速やかに搬出できる体制がほしい。
- ボランティアの皆さんは本当に素晴らしかった。
- ボランティアには本当に助けて頂きありがとうございました。炊き出しもありがとうございました。
- 田川の溢水の件はもっと報道すべき内容だと思う。自宅マンションの前は川のようになっていて車が流れていてすごい状況だった。
- 被災後に何をどのようにしてよいかの手順すらわからなかった。
- ボランティアへ依頼するための連絡先を貼りだすなどをしてほしい。
- 被災後の行政からの支援について、もう少し力を入れてほしい。
- わずかな住居の距離の差でこんなにも被害状況に差が生まれるとは思わなかった。
- ボランティアの人たちにはとても感謝しています。炊き出しもとてもおいしかったです。
- ボランティアの支援が長期にわたって行われ、被災者を力づけてくれて感謝している。
- 市役所の受付電話の対応があまりにも事務的で他人事のようなのでした。被災者の気持ちに寄り添う対応が欲しかった。ホントにつらい時期だったので。
- 地元のテレビ局の報道がない。災害報道に関しては何の情報もない。報道責任があるのではないか。
- 近所に来てくれたボランティアはとてもよくやってくれていた。感謝しています。
- ボランティアに関する情報がもっと広くわかりやすい方法で開示してほしい。
- ボランティアの募集状況や本当に必要なものがタイムリーにわかるよと良いと思った。
- ボランティアの方々の炊き出しを頂き心が温まる思いです。とてもありがたかったです。

す。

- ボランティアの人には感謝しています。
- ボランティアの人たちにはとてもよくしていただき感謝の気持ちでいっぱいです。
- 行政やボランティアの支援について詳しい情報をお知らせしてほしい。
- 行政の対応が遅い
- 部屋の中がまだ何となく臭いです。
- 泥出しのボランティアさんにお世話になりとてもありがたかった。
- 近所同士の助け合いがよくできた。ボランティアの活動は助かりました。
- マンション内での支援方法を考えていく必要を感じています。
- ボランティアさんには炊き出しでお世話になりました。おいしかったです。家の修繕で壁をどこまで取り除くのかについては、経験のあるボランティアさんの知識がたよりでした。
- YMCA などの炊き出しが助かった。
- ボランティアの方々が一軒一軒、被災した家を廻って支援の手を差し伸べてくださったのに頭が下がる思いでした。
- 大学や高校とボランティアの契約をしておく対策があると助かると思う。
- 炊き出しも助かりました。
- 行政のトップが速やかに被災地に足を運んで状況を把握することを望みます。
- 避難所での対応がよく快適に過ごせた。
- 避難所では大変よくしていただき安心して一晩お世話になりました。
- ボランティアの皆様にはとても感謝しています。
- 市の見舞金の分配が不明。
- 田川のコンクリート堤防をもっと高く作り、市民を安心できるようにしてほしい。
- 泥の掃除が大変でした。自分の家族だけでは倒れそうです。
- ボランティアが炊き出しをしてくれたり水や食料を配ってくれたりして千波地区は助かっていたと思います。また今泉地区は、田川のごみの掃除をしてくれて助かった。
- 車の被災だけでは罹災証明は対象外だった。
- 隣の空き家がいまだに手つかずになっている。
- ボランティアの方には敷地内の泥出しや不要物の整理などでお世話になりました。
- 見舞金も義援金も出ませんでした。
- 改修工事に必要となる費用の借入先と返済方法の具体的交渉先の紹介を依頼できる相談窓口設置。
- ボランティアに頼る人とそうでない人の温度差があったと思う。近隣に消毒も片付けもされていない家があり心配。
- ボランティアの対応は被災直後からあり、継続して支援いただきありがとうございます。市の対応は災害ごみの処理方法や対応方針が最初のころは明確ではなく戸惑い

があった。

- ボランティアの人の活動には本当に頭が下がる思いです。
- ボランティアの方々の清掃や消毒を徹底的にいただき、感謝しています。
- ボランティアの方のおかげで大いに助かりました。
- ボランティアの皆様には大変お世話になりました。
- 地域もボランティア活動の拠点として復興支援センターが地元にあることはとても心強い。
- ボランティアの方々の献身的な支援のおかげで今日があります。本当にありがとうございました。
- ボランティアを利用するにあたり連絡先が分からない。
- 今まで被災などは他人事だと思っていたが、当事者となって被災者のことを初めて痛感した。
- ボランティに参加するための広報をわかりやすくしてほしい。
- もう少し支援金が欲しい。
- 長期にわたる支援活動本当に感謝しています。
- たくさんのボランティアの人たちが来て掃除をしてくれて感謝しています。
- 床下の泥を取ってもらいありがたかった。
- ボランティアはとても素晴らしいと思いました。
- 炊き出しを利用した。床下の洗浄をしていただき大変感謝しています。
- 床下の洗浄をしていただきとても助かった。
- ボランティアを指揮する人がいないため無駄になったところもあった。
- 田川の堤防を高くしてほしい。ボランティアの支援は大変ありがたかった。
- 埴田睦会の方々に玄関前に山積みになっていた堆積土砂などを片付けてくださいました。ありがとうございました。
- 堤防がもっと高ければよいと思います。
- ボランティアさんには大変お世話になりました。感謝しております。
- ボランティアには本当によくしていただいた。
- すぐにボランティアが声をかけてくれたのはうれしかった。
- 役所の手続きが大変だった。何度も役所に足を運んだ。もっとわかりやすく簡単にしてほしい。
- ボランティアに来てもらっても何をどうしてほしいかの指示が追いつかず困った。また、何をすべきかを一緒に考えてくれる司令塔のような人がいてほしいと思った。
- 田川の氾濫対策をしっかりしてほしい。合流式下水道の見直しをしてほしい。二度とこのようなことの内容に対応してほしい。
- 自営業で補償がほとんどない。町内でやっている炊き出しはありがたかった。
- 下水道の整備を見直してほしい。

- ボランティアはとても助かったと思う。
- ボランティアに参加するための方法や連絡先はどのようになっているのかが分からない。
- 支援を受ける側も支援委参加する場合も連絡できる場所をわかりやすくしてほしい。
- 復旧にあたってボランティアの方にご協力を頂き感謝しています。
- ボランティアは大変助かった。
- ボランティアの支援を受けてとても助かりました。対応もとても親切でした。
- ボランティアの方々が熱心に対応してくれた。
- ボランティアの情報を流してほしい。ボランティア支援の公平化。
- もっと支援をしてほしかった。
- 支援金が少なすぎる。修繕費用が高いのに、半壊だとお金がもらえず、かなり不満です。
- 災害後の行政からの原因や今後についての説明が何もなく住民は不安である。
- ボランティアはよくやってくれました。
- 炊き出しの人たちにはとても感謝しています。
- ボランティアの方たちには本当によくしてくれました。
- ボランティアの方には現在もお世話になっています。自宅の修理に関してのアドバイスなど今後の復興に対することで相談できることがとてもありがたいです。
- 温かい炊き出し感謝しています。
- 自動車がこんなに水没するとは思わなかった。
- 床下の泥出し、家の周りの清掃など黙々と活動してくだしました。本当に助かりました。炊き出しも何度か利用しました。ありがとうございます。
- 陽北中学校まで車で避難をしたが途中で道路冠水をしているところがあり水に浸かった。車での避難は危険を伴うことがあると感じた。
- 市役所の対応があまりにも他人事で不満。
- 田川まで離れているので安心していましたがとんでもないことになりとても怖かったです。
- 田川を定期的に浚渫してほしい。

調査対象地域のまちづくり協議会による防災関連広報誌記事

約300名が参加！ 水害や土砂災害から身を守る
東地区 自主防災訓練 11月18日(日)



平成30年度東地区防災訓練が11月18日(日)、東小学校にて開催された。「講習会」では、市職員が異常気象の影響が、各地で発生する水害や土砂災害から自分の身を守るために子どもたちにも分かるようにクイズ方式で安全な避難方法などを説明。「体験コーナー」では、5分間の放水訓練、中央消防署員の指導で①地震体験 ②身近なものを利用して自宅への浸水を防ぐ方法や発電機やチェンソーの使い方を体験 ③けが人の応急手当と簡易な搬送訓練などを学び、予定時間を過ぎるほど真剣に体験をしていた。

終了後は、非常食の山菜ご飯や子どもにもパンの缶詰、とん汁が提供された。

自主防災会事務局長 薄井 邦延
 防災訓練について 東地区防災訓練隊が11月18日(日)晴天の中行われました。今年はおき出しはとん汁だけで非常食は菜詰とクワーカー、子どもたちは缶詰パンを配りました。前日から準備したとん汁は約300食、大鍋に粟刈山の肉や野菜まきのごがり時間をかけて煮込んだ味は最高！ 家庭で体験コーナーや水防訓練等終了した参加者が長い行列を作り配られたとん汁をフーフーしながら食べる様子が私たちに私たちが担当したメンバーは満足感でいっぱいでした。本当に美味しかったのかお祭りやむた多き子どもたちが有り人も並び大鍋の底まで残さずきれいにすくって完了しました。有難義な時間を過ごしました。

婦人防火クラブ会長 田仲 剛子

東地区 文化祭 12月1日(土)・2日(日)

12月1日(土)・2日(日)の2日間にわたり東地区文化祭が開催され、多くの方にきていただきました。1日目は主に作品展示や体験教室や販売をし、2日目は演奏フェスティバルを行いました。参加した方は日頃の練習の成果を思う存分発揮され、大いに盛り上がりました。特に1日目は東小学校の東校フェスタと同日開催だったので、児童・保護者・地域の方々で賑わい、多くの方にきていただきました。

防犯、防火、通信設備 (有)サンエイ通信

平成31年3月15日
 錦地域まちづくり広報誌 第28号
 平成31年3月15日
 発行責任者 山本 伸尚
 編集 錦地域連合自治会

錦地域まちづくり協議会構成団体
 錦地区老人クラブ連合協議会
 錦地区自治会連合協議会
 錦地区青年会連合協議会
 錦地区児童会連合協議会
 錦地区女性連合協議会
 錦地区障害者連合協議会
 錦地区ボランティア連合協議会
 錦地区消防団連合協議会
 錦地区防犯協議会
 錦地区交通安全協議会
 錦地区環境協議会
 錦地区文化協議会
 錦地区スポーツ協議会
 錦地区観光協議会
 錦地区健康協議会
 錦地区福祉協議会
 錦地区産業協議会
 錦地区防犯協議会
 錦地区交通安全協議会
 錦地区環境協議会
 錦地区文化協議会
 錦地区スポーツ協議会
 錦地区観光協議会
 錦地区健康協議会
 錦地区福祉協議会
 錦地区産業協議会

浸水想定区域
 0.5~3.0m未満
 0.5m未満
 浸水継続時間
 最大24時間
 最大72時間

錦川・田川の新たなハザードマップの改訂が公表されました
 宇都宮市において平成21年に公表された錦川・田川洪水ハザードマップの改訂作業が完了しました。改訂となった「錦川・田川洪水ハザードマップ」に掲載される浸水想定区域の改訂は、新規に追加された内容が2つあります。

浸水想定区域内の指定避難所等は次の様になります
 錦小学校、錦コミュニティセンターは、洪水時の避難所として指定されています。また、錦小学校、錦コミュニティセンターは、洪水時の避難所として指定されています。また、錦小学校、錦コミュニティセンターは、洪水時の避難所として指定されています。

1000年超に一度の大雨」と近年の豪雨災害の比較

西日本豪雨(広島県・岡山県)	130ミリ	24時間雨量	309ミリ
1000年超に一度の大雨	365ミリ(観測)	634ミリ(観測)	

 「1000年に一度の大雨」から「1000年超に一度の大雨」の浸水想定へと変更がなされました。これは、想定しうる豪雨の降水量を、更新します。

情報の連絡体制について
 市は登録メールの緊急連絡メール、テレビの防災情報、ラジオ、ホームページ、ウェブサイト等を活用して、市「避難所関係」 「避難所関係」 「避難所関係」等を伝達します。

錦川・田川洪水ハザードマップの改訂について
 ハザードマップは宇都宮市から浸水想定区域の案に示されます。洪水浸水想定区域の図は錦コミュニティセンターや市民センター等で入ります。

「1000年超に一度の大雨」による豪雨災害が各地で頻発！
 「その時は錦地区は」

全錦地域まちづくり協議会

図IV-55 自治会広報誌における防災活動関連掲載記事

注：(左) 東地域まちづくり広報誌 (第 46 号) 平成 31 年 3 月 1 日発行
 注：(右) 錦地域まちづくり広報誌 (第 28 号) 平成 31 年 3 月 15 日発行

本調査対象地域内の「東地域連合自治会」および「錦地域連合自治会」では、それぞれ地域のまちづくり協議会により広報誌が定期発行されており、平成31年1月に改訂された本地域を含む洪水ハザードマップの公開にあわせて、自主防災訓練参加の呼びかけや、改訂公開された洪水ハザードマップによる地域の浸水想定域・避難所等に関する居住者向けの情報がまとめられている(図IV-55)。

田川左岸の錦地区では、広報誌の地図内に道路冠水多発箇所が示されているほか、洪水時には、域内の「錦小学校」と「錦コミュニティセンター」が使用できない旨が記載され、併せて、JR 鉄道路線の東側に避難方向の目安が示されている。

田川下流域の被害状況写真

宇都宮市における台風第 19 号による被災地のうち、本調査対象地域の下流部にあたる旭陵橋以南の西原町、川田町においても浸水による住宅被害のほか、洪水流により川田橋が落橋流失するなどの被害も発生した（撮影日：2019 年 10 月 13 日・撮影者：坪井塑太郎）。



写真IV-4 認定みどり幼稚園前の浸水痕



写真IV-7 川田橋落橋流失現場（1）



写真IV-5 冠水状態の集合住宅駐車場



写真IV-8 川田橋落橋流失現場（2）



写真IV-6 旭陵橋西側の浸水痕と堆積汚泥



写真IV-9 川田橋付近の洗堀痕と農地被害